

大分の畜産

2016



(株)大分県畜産公社

平成28年度

大分県

目 次

I 農業及び畜産の概要	
1. 農業の概要	1
2. 畜産の概要	3
II 家畜別の動き	
1. 肉用牛	4
2. 乳用牛	8
3. 豚	11
4. 採卵鶏	13
5. ブロイラー	16
6. 地鶏	19
7. 生産費と所得の推移	20
III 飼料	22
IV 家畜衛生・畜産環境	25
V 平成29年度大分県畜産関係補助事業等（抜粋）	27
資料1 畜産関係団体等一覧	31
資料2 畜産関係機関県組織機構	32
資料3 大分県の種雄牛	33
資料4 県内の主要なふれあい牧場	34
資料5 平成28年農林水産部 畜産振興課・畜産技術室の 主な出来事	36

I 農業及び畜産の概要

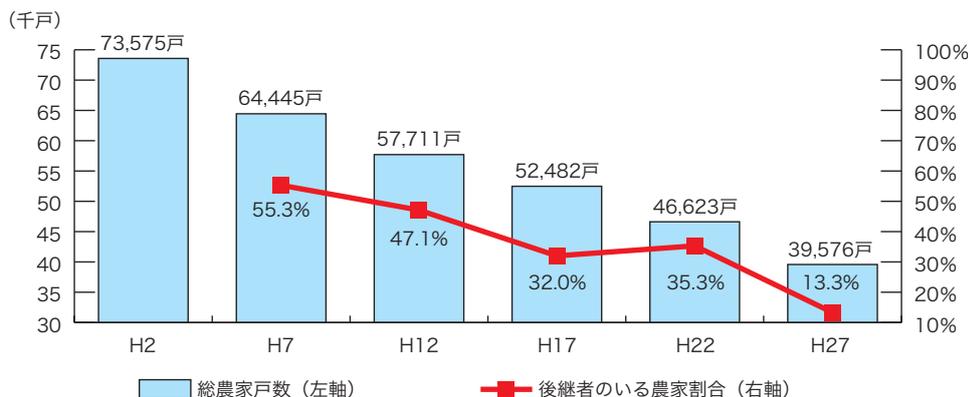
1. 農業の概要

(1) 本県農業の位置づけ

項目	単位	区分					資料
		大分県	九州	全国	大分/九州(%)	大分/全国(%)	
総農家戸数	戸	39,576	308,935	2,153,045	12.8	1.8	農林水産省「農林業センサス(平成27年)」
販売農家戸数	戸	24,294	199,094	1,326,755	12.2	1.8	
(構成比)	(%)	61.4	64.4	61.6	95.3	99.6	
農業就業人口	人	34,791	327,009	2,090,014	10.6	1.7	農林水産省「生産農業所得統計(平成27年)」
農業産出額	億円	1,287	17,541	88,631	7.3	1.5	
生産農業所得	億円	472	5,842	32,698	8.1	1.4	
生産農業所得÷農業産出額	(%)	36.7	33.3	36.9	110.1	99.4	
農業産出額÷総農家戸数	千円	3,252	5,678	4,117			
農業産出額÷販売農家戸数	千円	5,298	8,810	6,680			
耕地面積	ha	56,600	545,900	4,496,000	10.4	1.3	農林水産省「耕地及び作付面積統計(平成27年)」
田面積	ha	40,300	318,500	2,446,000	12.7	1.6	
(構成比)	(%)	71.2	58.3	54.4	122.1	130.9	
畑面積	ha	16,300	227,400	2,050,000	7.2	0.8	
(構成比)	(%)	28.8	41.7	45.6	69.1	63.2	
うち牧草地	ha	2,780	14,600	606,500	19.0	0.5	
(構成比)	(%)	4.9	2.7	13.5	181.5	36.3	

(注) 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家。
 農業就業人口：販売農家で、農家に常住し、しかも生活の本拠をそこに持つ世帯員のうち、調査期日前1年間に、「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」。
 生産農業所得：農業産出額から生産のために投入された物的経費を控除して推計したもの。

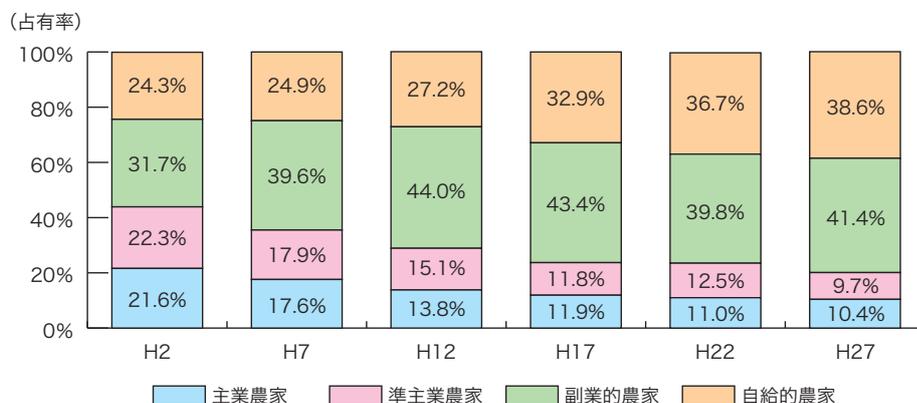
(2) 農家戸数の推移（大分県）



農家戸数はH27年が39,576戸で、5年前に比べ15.1%減少した。後継者のいる農家割合はH27年が13.3%で、5年前の35.3%に比べ大幅に減少している。

資料：農林水産省「農林業センサス」

(3) 主業副業農家占有率の推移（大分県）

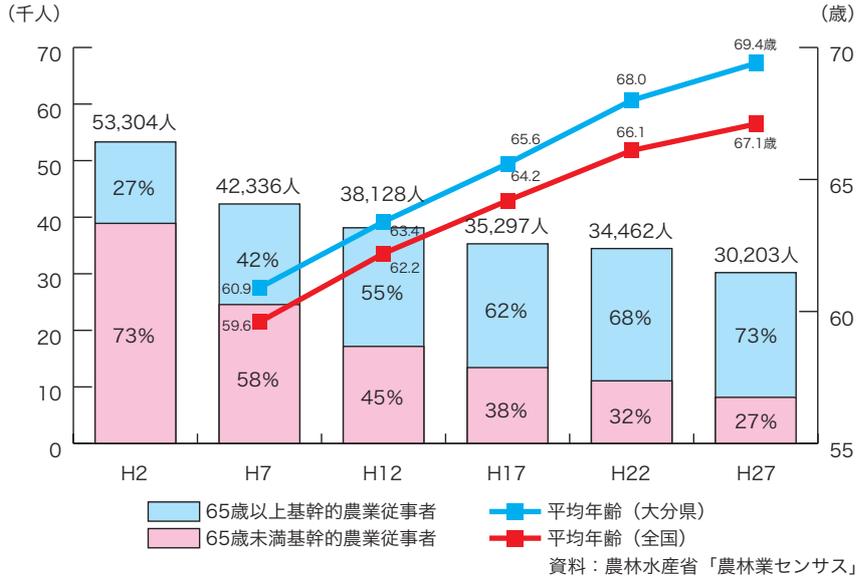


H27年の主業農家の割合は10.4%で、5年前に比べ0.6%減少した。農家戸数は5年前に比べ、15.1% (7,047戸) 減少したのに対し、主業農家戸数は20.2% (1,041戸) 減少した。

資料：農林水産省「農林業センサス」

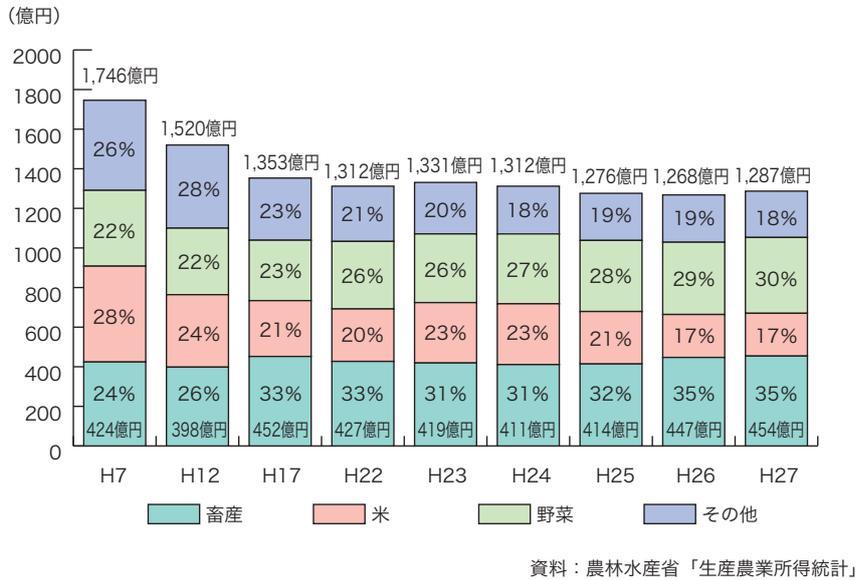
(注) 主業農家：販売農家のうち農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 準主業農家：販売農家のうち農外所得が主で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 副業的農家：販売農家のうち65歳未満の農業従事60日以上の方がいない農家。（主業農家・準主業農家以外の農家）
 自給的農家：経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家。

(4) 農業労働力の推移（大分県）



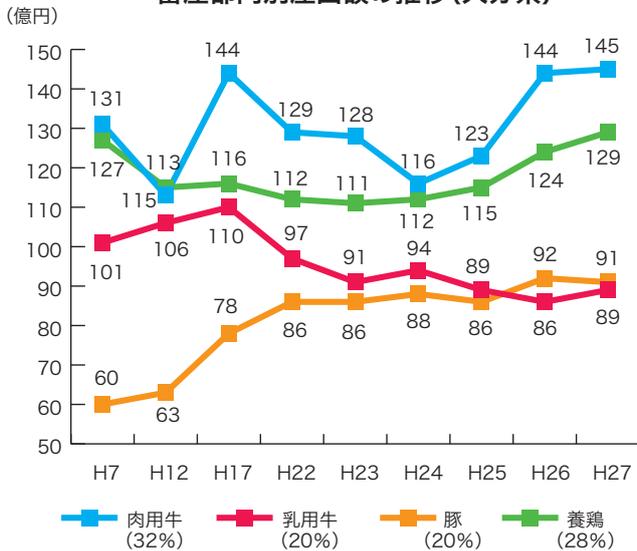
基幹的農業従事者数は、H27年の従事者数が30,203人で、5年前に比べ87.6%と、減少傾向が続いている。
 65歳未満従事者割合は、H27年が27.4%と5年前に比べ4.6ポイント(2,763人)減少した。
 平均年齢は、H27年が69.4歳であり、5年前に比べ1.4歳上昇している。
 (注) 基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、調査日前1年間の普段の主な状態が「仕事に従事していた者」のこと。

(5) 農業産出額（大分県）

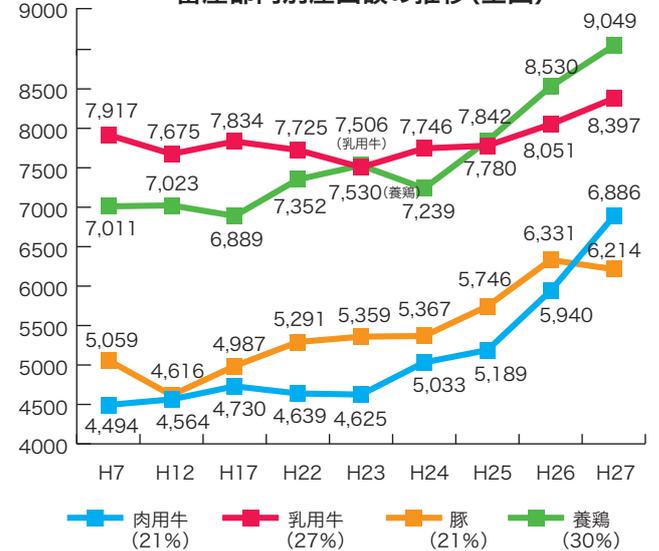


H27年の農業総産出額は1,287億円で前年に比べ19億円(1.5%)増加した。畜産は454億円で総産出額の35%を占め、前年に比べ7億円(1.6%)増加した。
 畜産の部門別産出額では、肉用牛が145億円(畜産に占める構成比32%)で、前年に比べ0.7%増加し、乳用牛は89億円(同20%)で3.5%増加した。豚は91億円(同20%)で1.1%減少し、養鶏は129億円(同28%)で4.0%増加した。

畜産部門別産出額の推移(大分県)



畜産部門別産出額の推移(全国)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

2. 畜産の概要

(1) 家畜の飼養戸数・頭羽数（平成28年2月1日）

		大分県		九州			全国		
		実数	対前年比(%)	実数	対前年比(%)	順位	実数	対前年比(%)	順位
肉用牛	戸数	1,340	98.5	22,700	95.0	5	51,900	95.4	11
	頭数	47,900	98.4	883,700	98.8	6	2,479,000	99.6	16
	頭/戸	35.7	99.8	38.9	104.1	6	47.8	104.4	36
乳用牛	戸数	143	98.6	1,660	94.9	6	17,000	96.0	25
	頭数	12,900	94.9	110,200	95.7	5	1,345,000	98.1	17
	頭/戸	90.2	96.2	66.4	100.8	1	79.1	98.1	3
豚	戸数	50	—	1,520	—	6	4,830	—	25
	頭数	136,300	—	2,873,000	—	5	9,313,000	—	19
	頭/戸	2,726.0	—	1,890.1	—	1	1,928.2	—	8
採卵鶏	戸数	29	—	508	—	7	2,530	—	31
	千羽	1,471	—	23,443	—	6	175,733	—	28
	千羽/戸	43.7	—	37.0	—	2	55.2	—	25
ブロイラー	戸数	54	—	1,150	—	5	2,360	—	10
	千羽	2,331	—	67,350	—	6	134,395	—	13
	千羽/戸	43.2	—	58.6	—	6	56.9	—	19

(注) H27年はセンサス実施年のため豚・鶏については未公表

(資料：農林水産省「畜産統計」)

①肉用牛

戸数、頭数ともに全国の上位に位置するが、1戸あたりの飼養規模は全国36位(H27年34位)であり、H25年以降2年連続で順位を落としている。

②乳用牛

飼養戸数、頭数ともに前年に比べ減少。1戸あたりの飼養頭数も前年比で3.8%減少したが、九州で1位、全国では3位の規模となっている。

③豚

飼養戸数、頭数ともにH26年に比べ減少したが、1戸あたりの飼養頭数はH26年比で304.3頭/戸(12.6%)増え、九州1位、全国8位の規模となっている。

④採卵鶏

飼養戸数、羽数ともにH26年に比べ減少したが、1戸あたりの成鶏雌飼養羽数はH26年比で3.2千羽/戸(7.9%)増えている。

⑤ブロイラー

飼養戸数はH26年に比べ5戸減少したが、飼養羽数はH26年比で101千羽(4.5%)、1戸あたり飼養羽数は5.4千羽/戸(14.3%)増加している。

(2) 認定農業者数（畜産：平成28年3月末時点）

	県計	畜産単一経営小計					
		酪農	肉用牛	養豚	養鶏	その他	
認定農業者数	4,369	377	99	205	35	37	1
法人数	570	87	30	18	23	15	1
率	13.0%	23.1%	30.3%	8.8%	65.7%	40.5%	100.0%

(注)「畜産単一経営」とは畜産関係販売金額が農産物総販売金額の80%以上を占める経営をいう

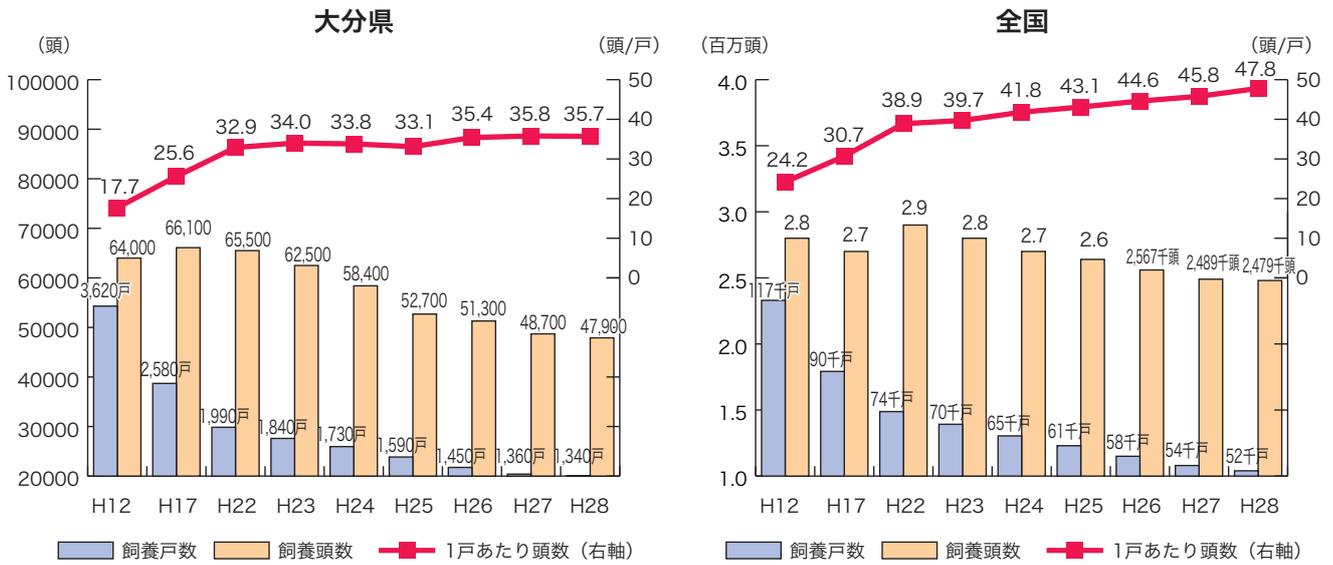
(資料：大分県)

畜産単一経営における認定農業者数は377戸で、法人化率は23.1%と県全体の法人化率13.0%を大きく上回っている。特に養豚、養鶏の法人化率が高く、肉用牛は家族経営が中心で8.8%と県全体の法人化率を下回っている。

II 家畜別の動き

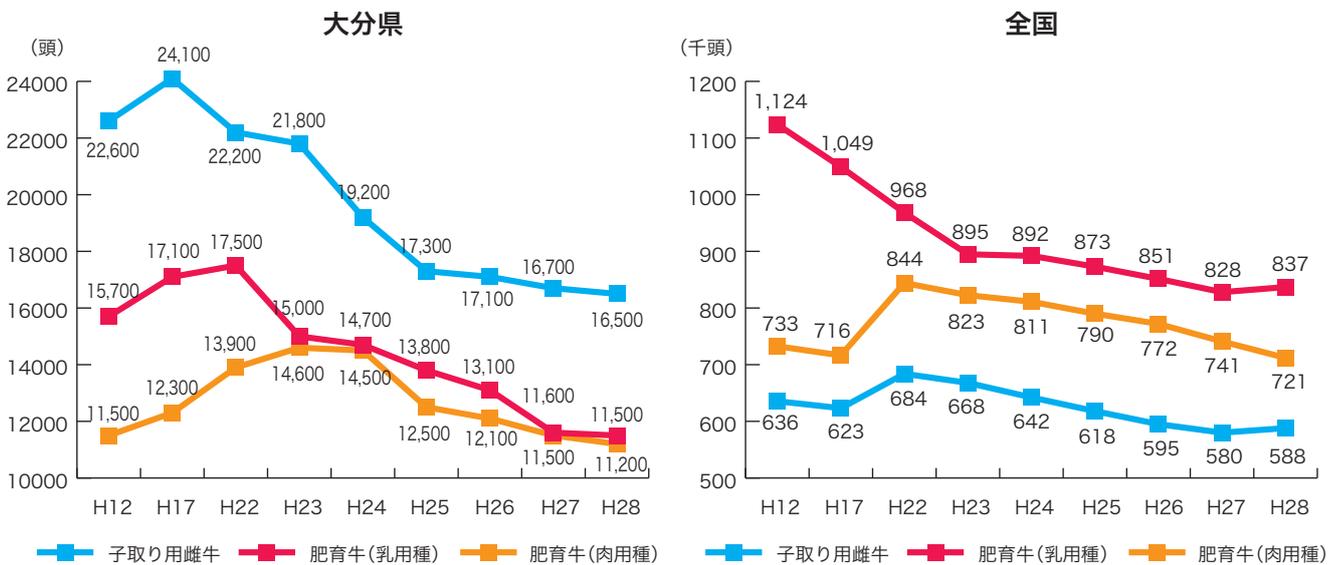
1. 肉用牛

(1) 飼養戸数・頭数の推移



H28年2月1日現在の飼養戸数は1,340戸で前年に比べ20戸（1.5%）減少した。飼養頭数は47,900頭で、前年に比べ800頭減少した。
1戸あたりの飼養頭数は35.7頭とH26年以降ほぼ横ばいとなっている。

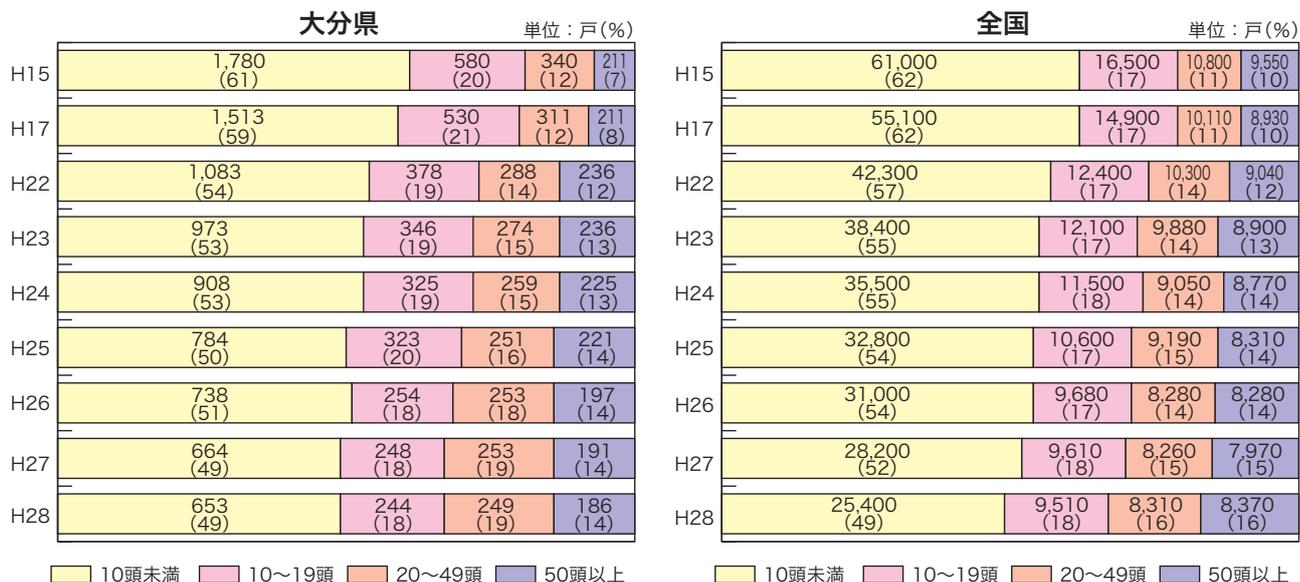
(2) 用途別頭数の推移



(注1) 子取り用雌牛：子牛の生産を目的として飼養している雌牛（過去に種付けしたことのある牛及び近い将来種付けをすることが確定している牛。）
(注2) 肥育牛：肉牛販売を目的に飼養している牛。したがって、ほ育・育成中の牛でも引き続き自家で肥育する予定のものは肥育牛とする。

子取り用雌牛は16,500頭で、前年に比べ200頭（1.2%）減少した。子牛の高値により増頭意欲が高いが、高齢化による廃業等が主な要因。
肥育牛（肉用種）は、11,500頭と前年比で横ばい。
肥育牛（乳用種）は、11,200頭で前年に比べ400頭（3.4%）減少した。

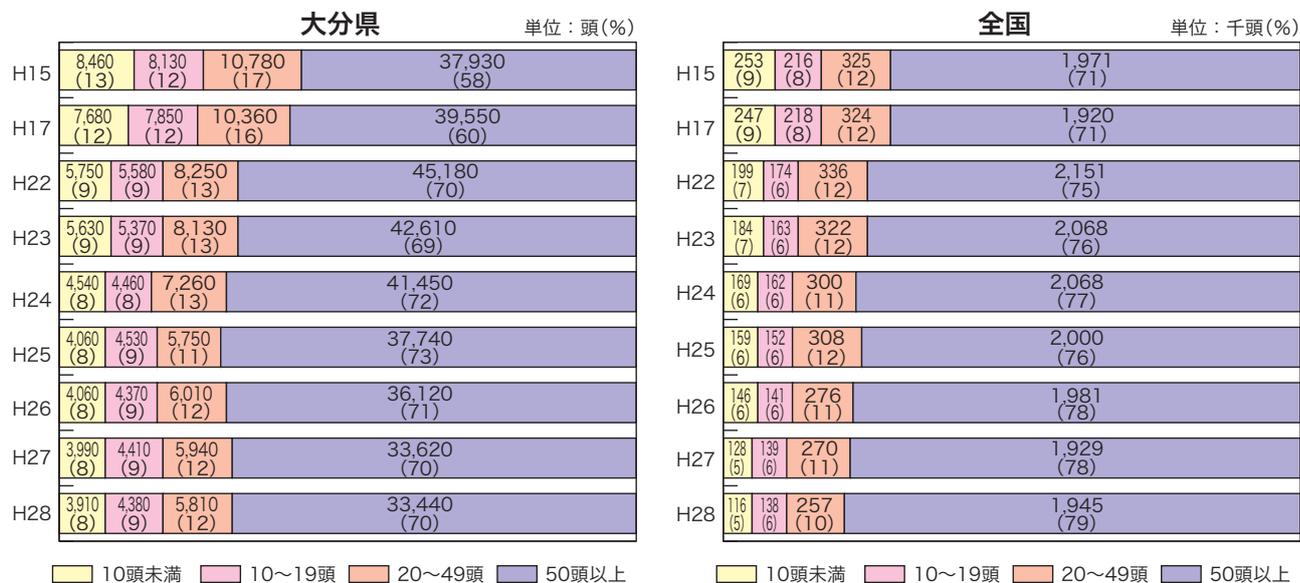
(3) 規模別飼養戸数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

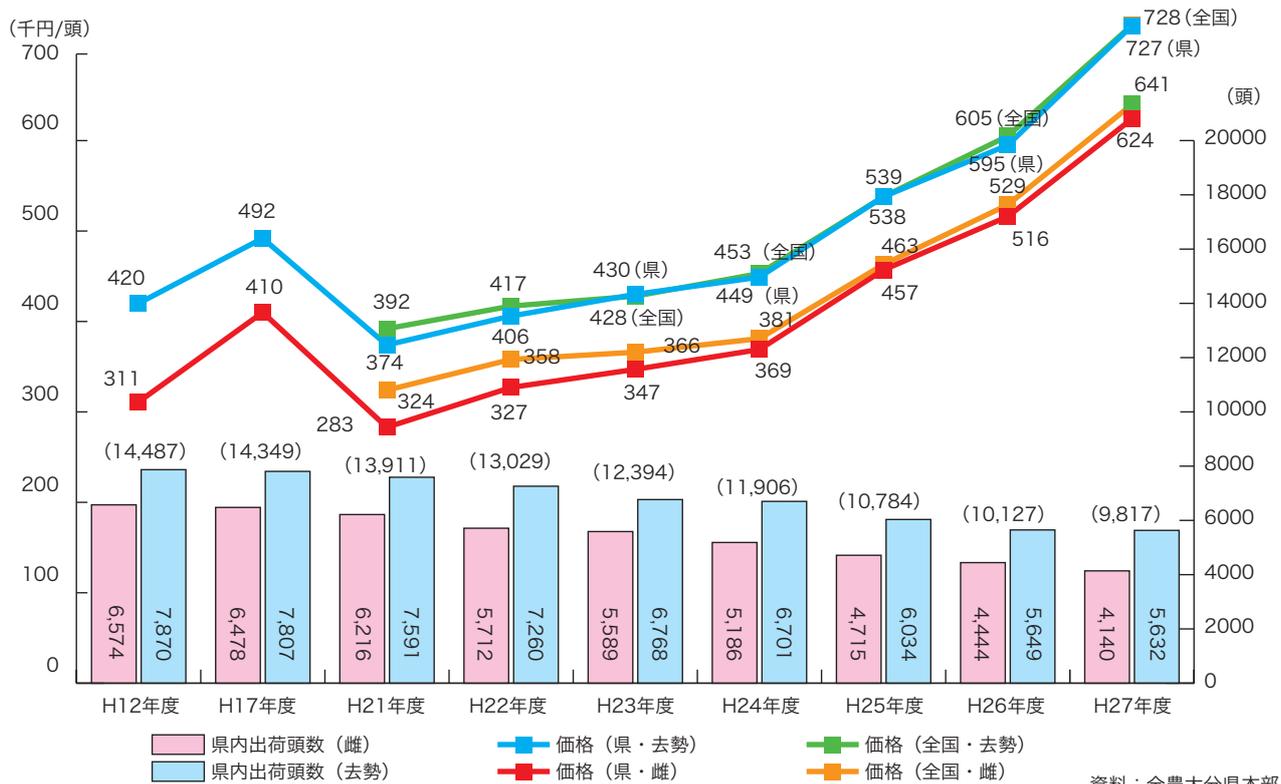
(4) 規模別飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

(5) 子牛市場出荷頭数・平均価格の推移

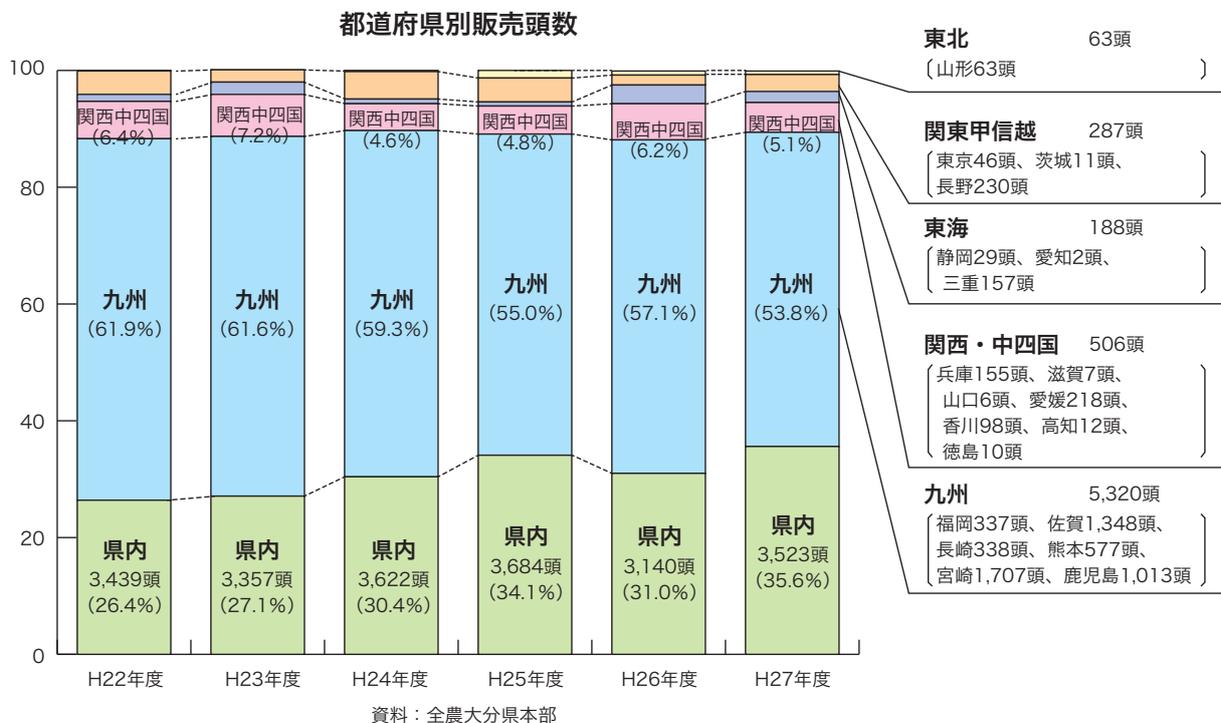


資料：全農大分県本部

(注1) グラフ内「去勢」頭数には「雄」頭数を含まず、()内出荷合計頭数には「雄」頭数を含まため、合計頭数は一致しない
 (注2) 「大分の畜産 2011」以前は「入場頭数」を、「大分の畜産 2012」以降は「成立頭数」を「出荷頭数」として計上
 (注3) 再上場による頭数等は含まないため、(6)に示す出荷頭数とは必ずしも一致しない。

H27年度の県内出荷頭数は9,817頭で、前年に比べ310頭 (3.1%) 減少した。
 平均価格は、去勢726,541円、雌623,645円で、それぞれ132千円、108千円と大幅に上昇した。

(6) 肉用子牛 (黒毛和種) の流通

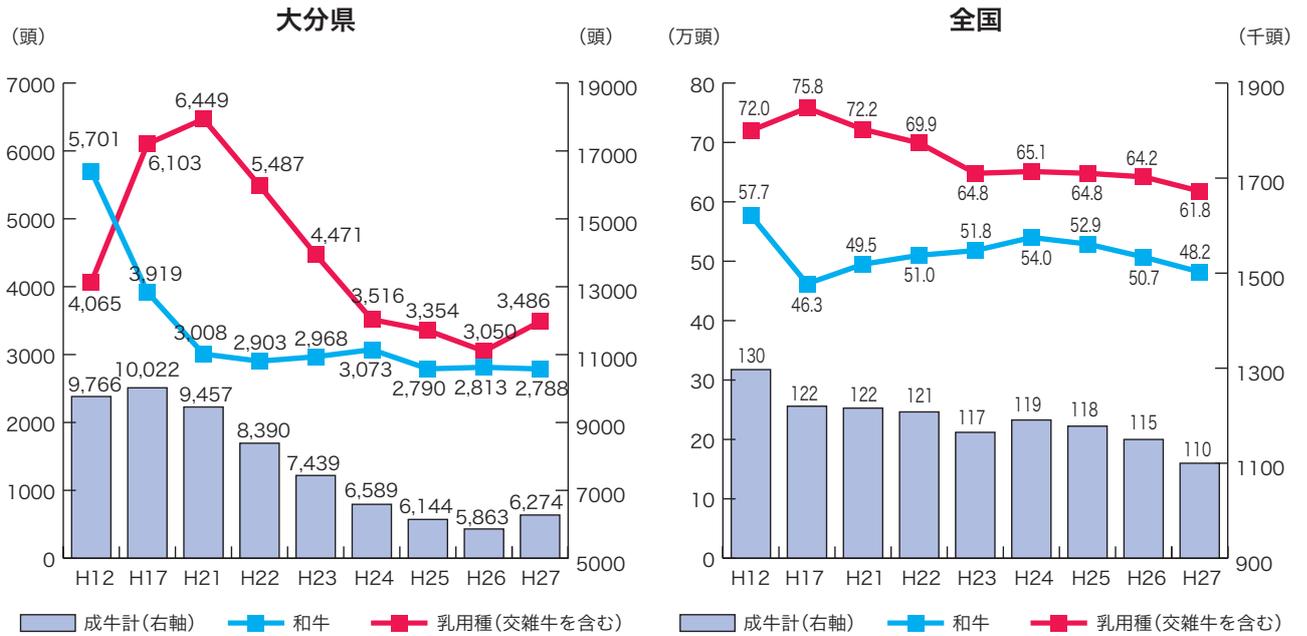


資料：全農大分県本部

(注) 再上場による頭数等を含むため、(5)に示す出荷頭数とは必ずしも一致しない

H27年度の県内販売頭数は3,523頭で、総出荷頭数9,887頭の35.6%と増加した。
 地域別では九州が5,320頭 (53.8%) と最も多く、県外販売頭数のうち83.6%を占めている。
 県別では、宮崎県が1,707頭 (17.3%) と最も多く、次いで佐賀県1,348頭 (13.6%)、鹿児島県1,013頭 (10.2%) であった。

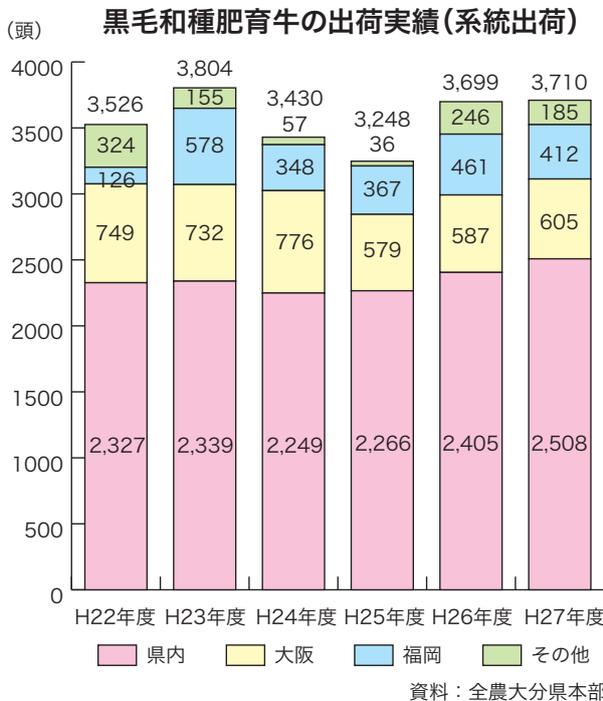
(7) 肉用牛県内と畜頭数の推移



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

H27年の成牛と畜頭数は6,274頭で前年比7.0%増加し、特に乳用種（交雑牛を含む）の増加が大きい。和牛はH22年以降はやや回復傾向にあり、H27年は2,788頭で前年比25頭（0.9%）減少とほぼ横ばいの状況。乳用種（交雑牛を含む）は3,486頭（うち乳牛2,011頭）で、前年の3,050頭（うち乳牛1,753頭）に比べ、436頭（14.3%）増加した。

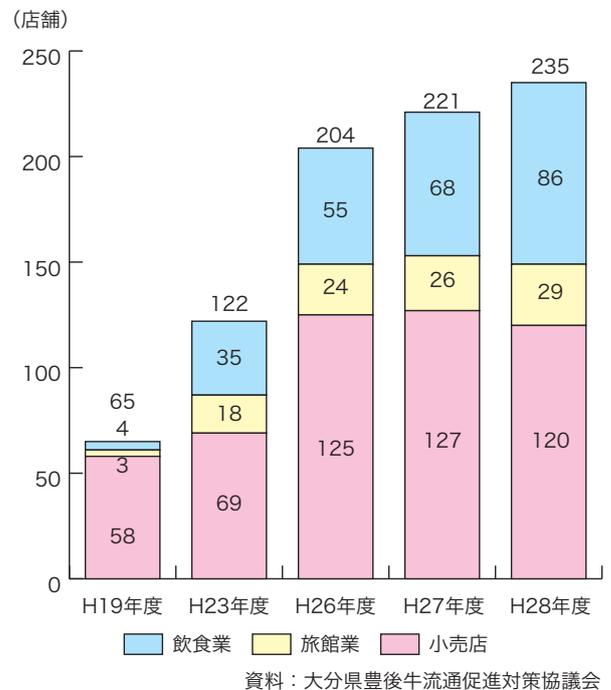
(8) 県産肉用牛（黒毛和種肥育牛）の流通



資料：全農大分県本部

H27年度の黒毛和種肥育牛の出荷頭数（系統出荷）は3,710頭で、前年比100.3%と微増。出荷頭数の都道府県別仕向け頭数は、大阪の出荷頭数が最も多く、県外出荷の50.3%を占める。

(9) おおいた豊後牛取扱認定店舗数推移



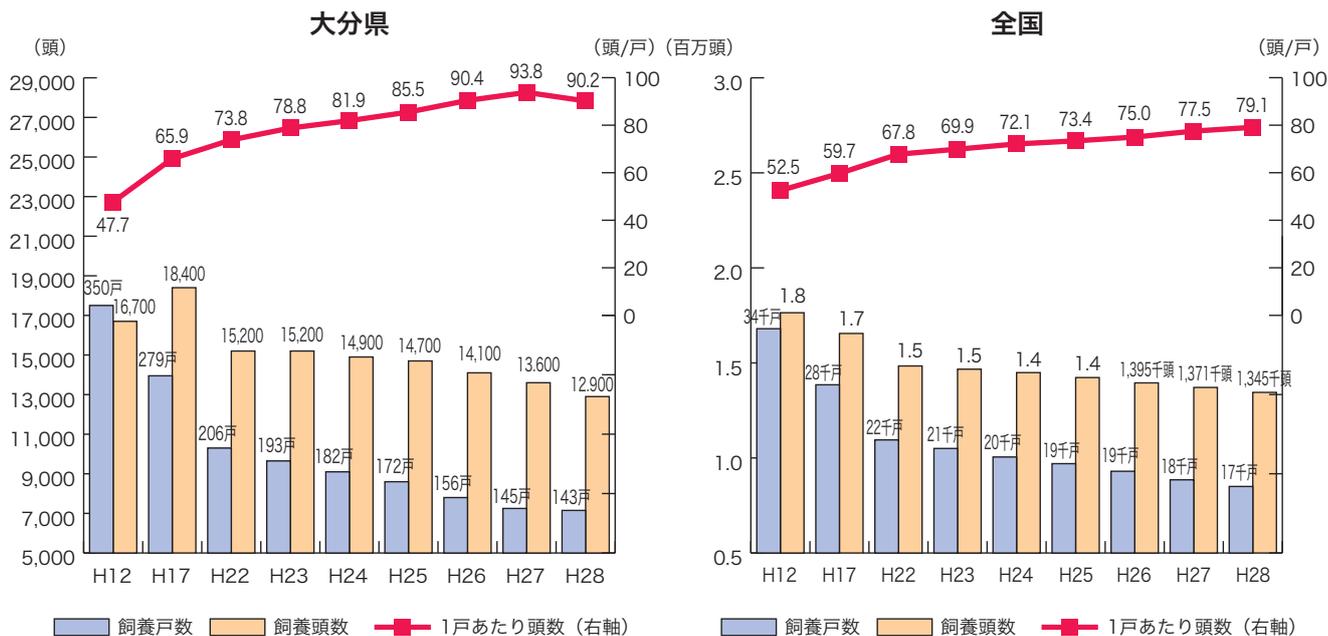
資料：大分県豊後牛流通促進対策協議会

(注) H28年度より常時取扱店のみを認定店としてカウント。併せて、過去の数字についても常時取扱店のみで修正した。

認定店制度はH19年度に始まり、取扱店舗数は順調に増え、H28年度には235店舗になった。業種別では小売店が最も多く、51.1%を占めている。H27年度からH28年度にかけて最も伸び率が高いのは飲食業で18店舗（26.5%）増加した。

2. 乳用牛

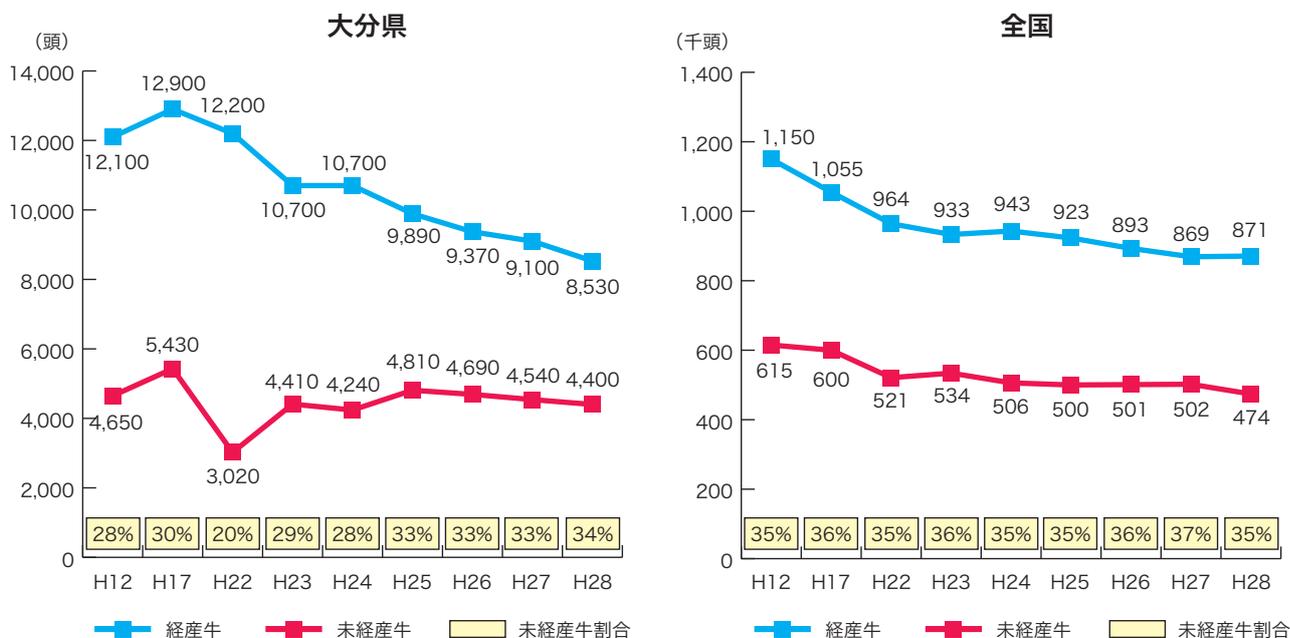
(1) 飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

H28年2月1日現在の飼養戸数は143戸で前年に比べ2戸減少した。飼養頭数は12,900頭で、前年に比べ700頭（5.1%）減少した。生産調整等の影響によりH17年比では70.1%まで減少している。1戸あたり飼養頭数はH27年までは順調に増加したが、H28年は減少に転じた。

(2) 用途別頭数の推移

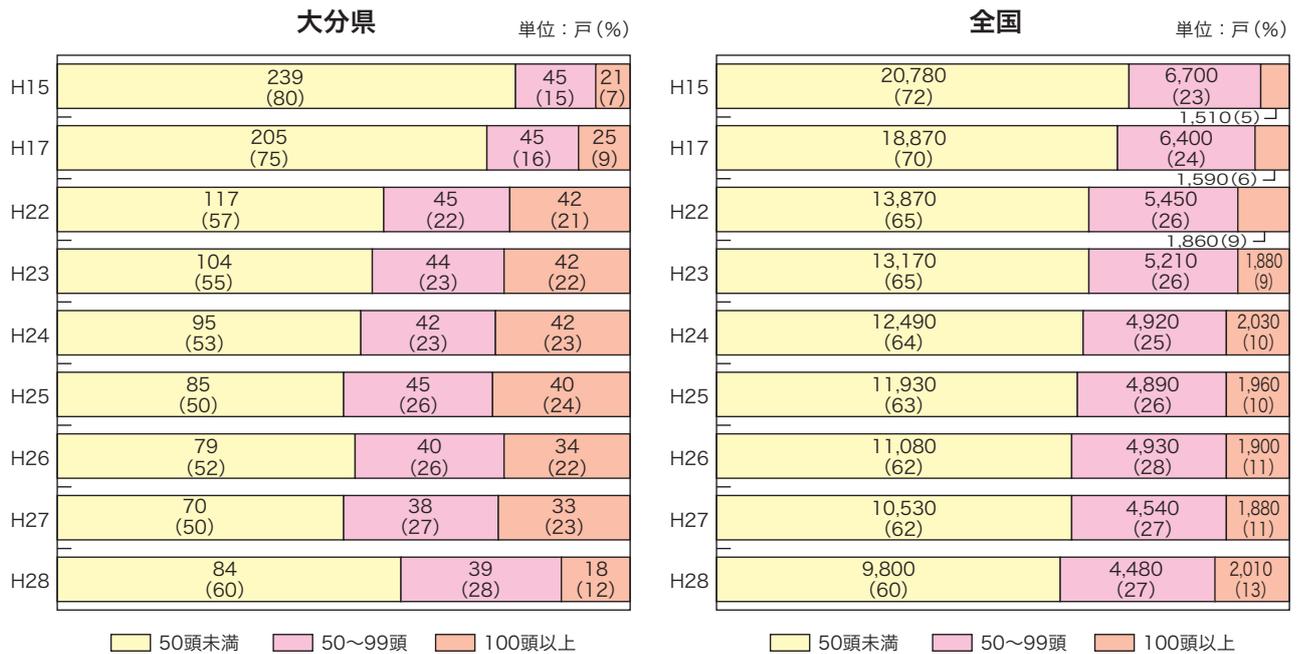


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 搾乳牛：経産牛のうち、搾乳中の牛のこと。
 (注2) 乾乳牛：経産牛のうち、搾乳していない牛のこと。分娩前乾乳と空胎乾乳がある。
 (注3) 未経産牛：出生してから分娩するまでの牛で、生後30ヶ月位までが主体。

大分県は全国に比べ未経産牛割合が低く、H22年には20%まで低下していたが、その後上昇し、H28年は34%とH12年に降最も高い水準となっている。

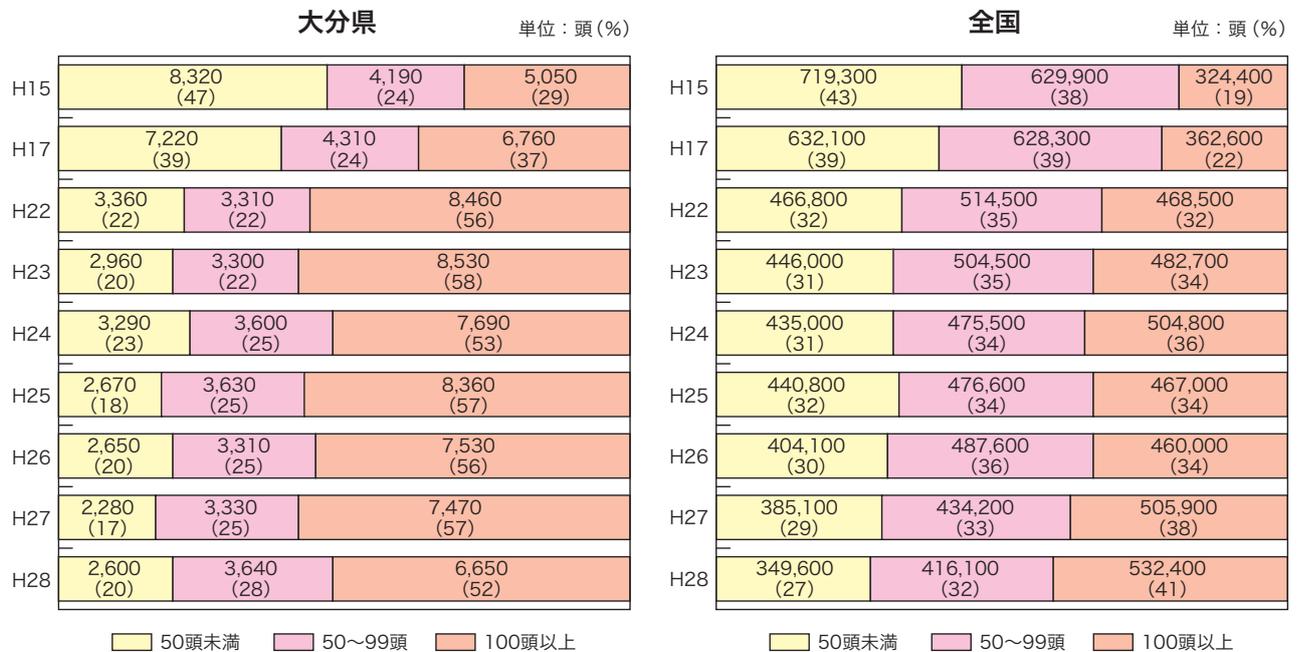
(3) 成畜飼養頭数規模別飼養戸数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

(4) 成畜飼養頭数規模別飼養頭数の推移

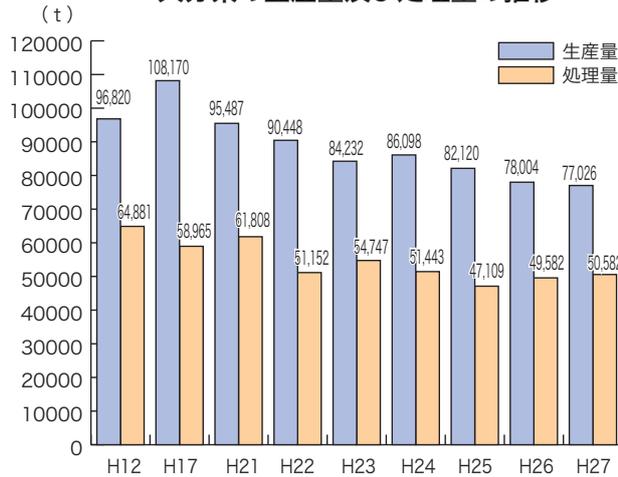


資料：農林水産省「畜産統計」

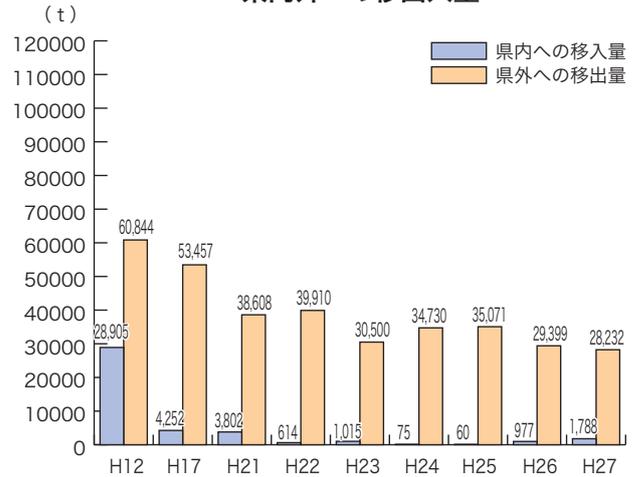
(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

(5) 生乳生産量・処理量の推移

大分県の生産量及び処理量の推移

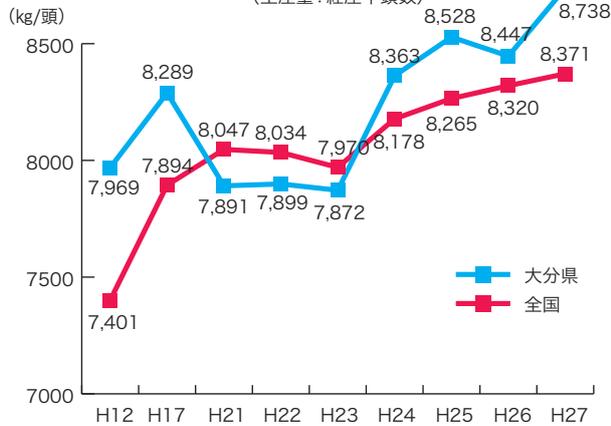


県内外への移出量



経産牛1頭当たり乳量

(生産量÷経産牛頭数)



①生産量及び処理量

H18年の生産調整開始後、生産量は減少しており、H27年は前年比978t (1.3%) の減少となっている。

②県内外への移出量

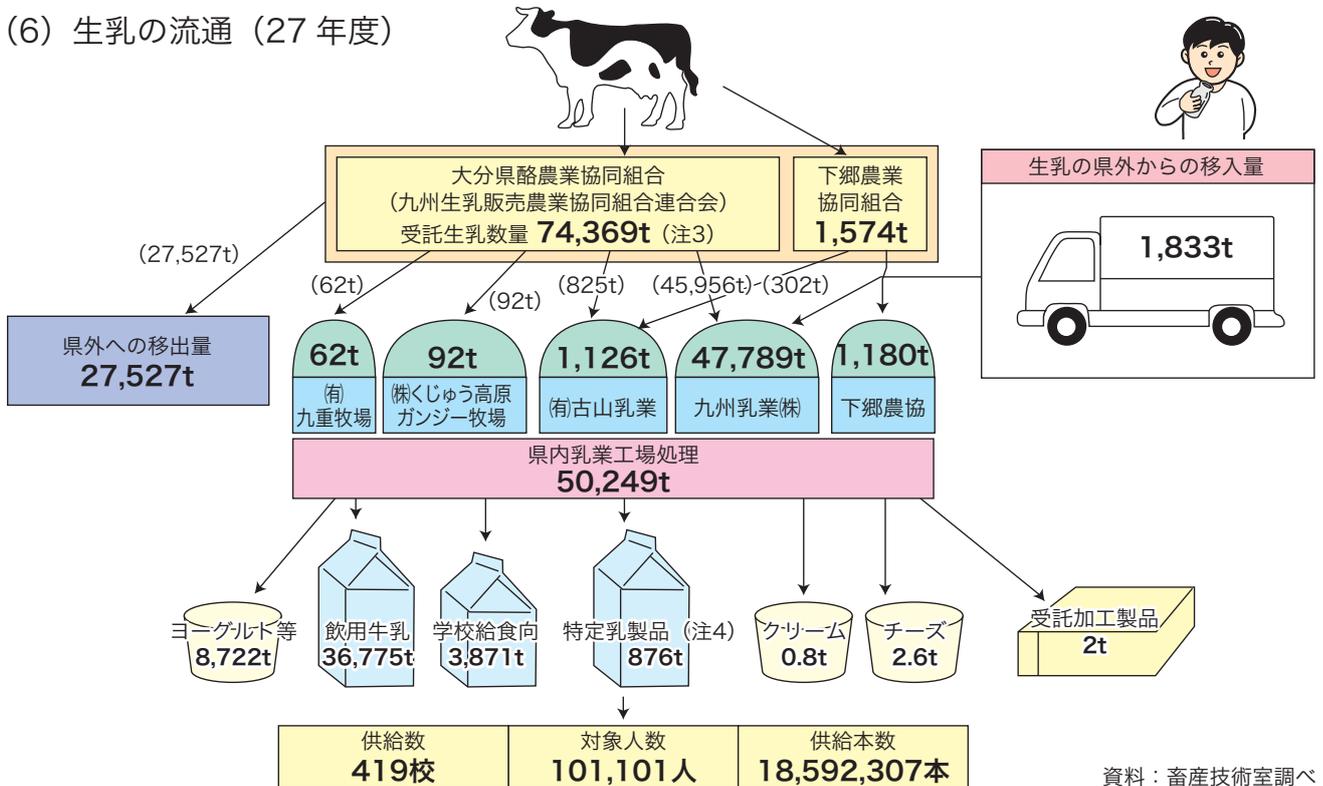
大分県は移入量に比べ移出量の多い輸出県であり、減少傾向であった移出量もH23年以降、増加に転じていたが、H26年から再び減少している。

③経産牛1頭あたり乳量

大分県は生産調整開始後、飼養頭数と乳量卒とのバランスが崩れ、全国平均を下回っていたが、H24年以降は回復し、全国平均を上回っている。

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」より

(6) 生乳の流通 (27年度)



(注1) 生乳生産量：初乳を除く生乳（搾乳したままの乳用牛の乳）の総量であり、乳製品工場、牛乳処理場に出荷したもののほか、生産者の自家飲用、子牛ほ乳用等を含めたもの。

(注2) 生乳処理量：生乳を県内で乳製品向け、飲用牛乳向け、その他向け（自家飲料、子牛のほ乳用）に処理したものの量。

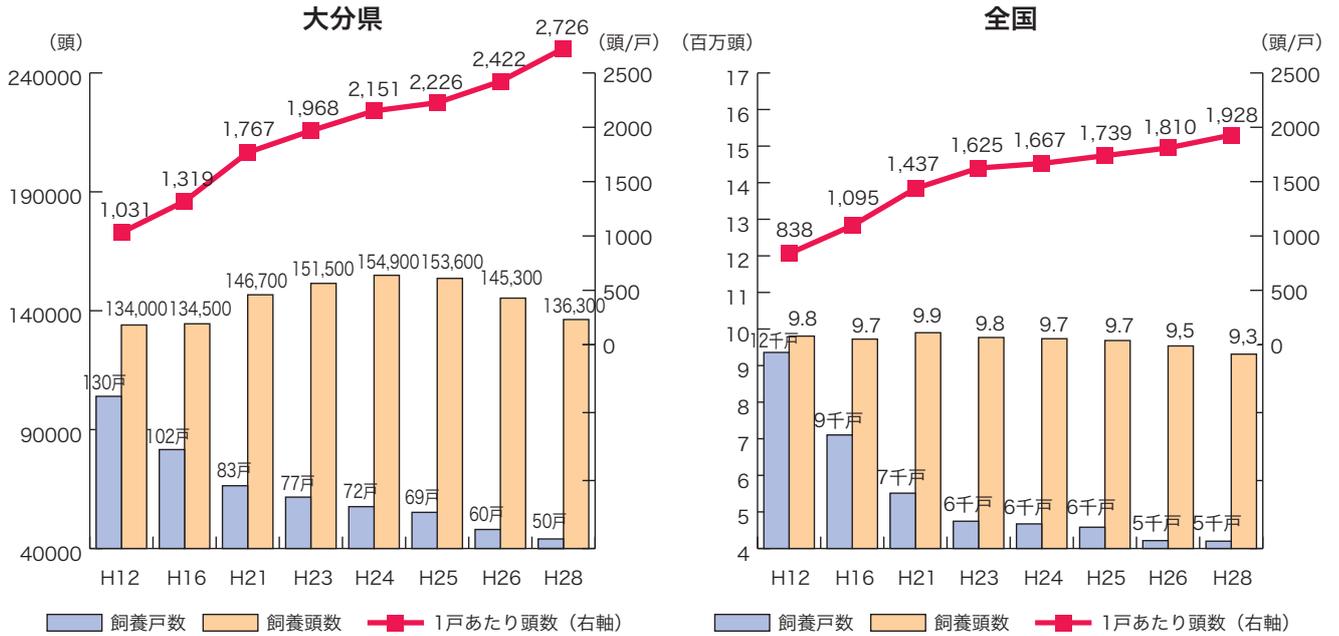
(注3) 受託生乳数量：酪農家が県酪協に委託して、九州生乳販売農業協同組合連合会に出荷した量。

(注4) 特定乳製品：全粉乳、脱脂粉乳、加糖粉乳、全脂加糖練乳、脱脂加糖練乳、全脂無糖練乳、バター及び子牛用の脱脂乳をいう。

(注5) 当該データはH27年度数値であり、農林水産省「牛乳乳製品統計」はH27年度数値であるため、両者は必ずしも一致しない。

3. 豚

(1) 飼養戸数・頭数の推移

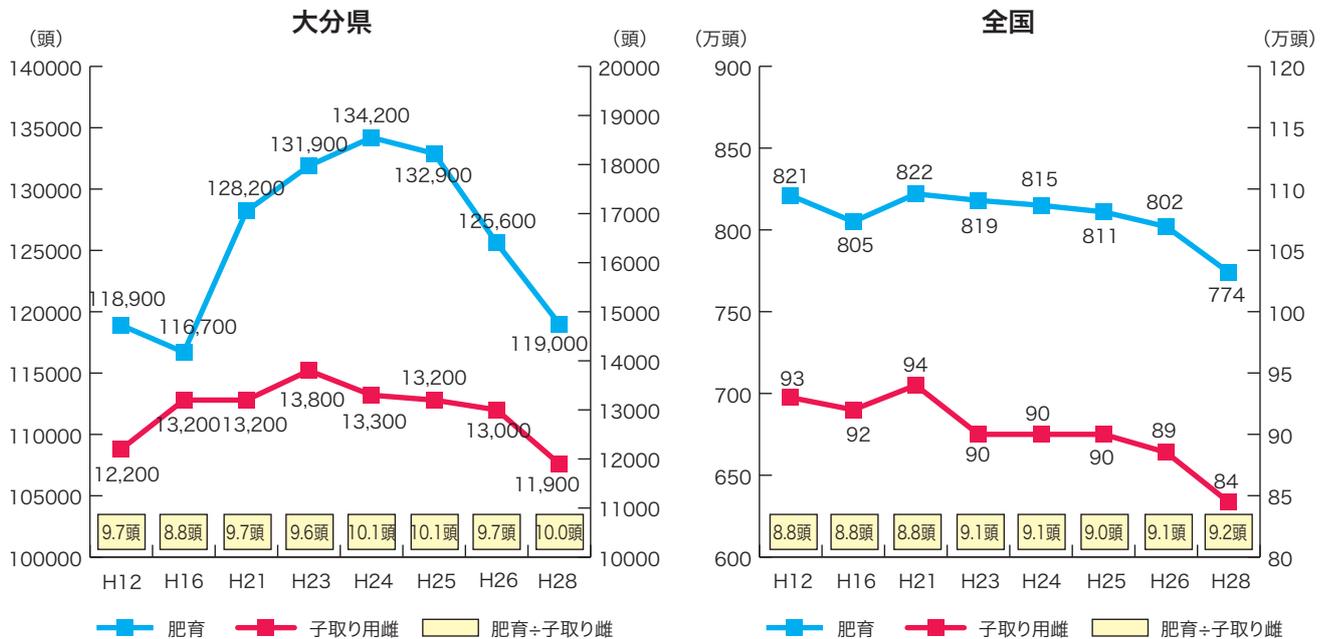


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

H28年の飼養戸数は50戸でH26年に比べ10戸（16.7％）減少した。飼養頭数は136,300頭とH26年比で9,000頭（6.2％）減少した。1戸あたり頭数では、H28年は2,726頭とH26年比304頭（12.6％）増加し、全国と比べ規模拡大が進んでいる。

(2) 用途別頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

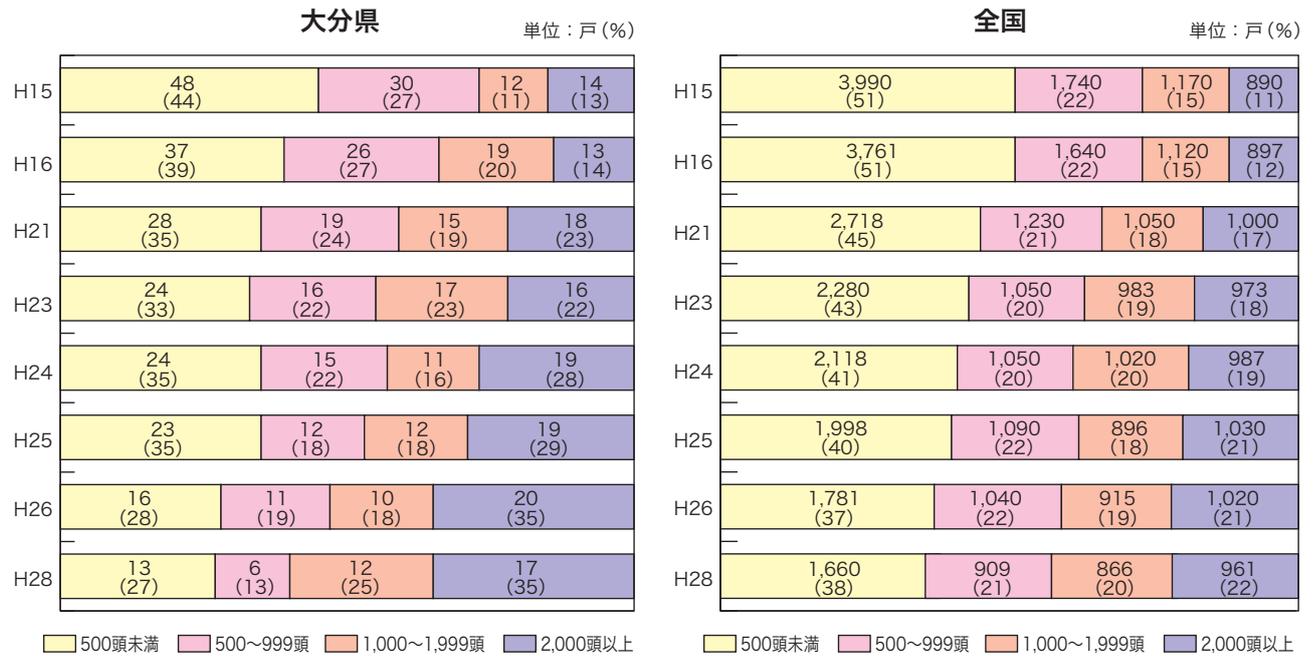
(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 子取り用めす豚とは生後6ヶ月以上で子豚を生産することを目的としているめす豚のこと。

実際には過去に種付けしたことのある豚及び近い将来種付けすることが確定している豚のこと。

子取り用めす豚は11,900頭でH26年に比べ1,100頭（8.5％）減少したが、1戸あたりの飼養頭数は305頭で17.3％増加した。肥育豚は119,000頭でH26年比6,600頭（5.3％）減少した。肥育豚頭数を子取り用めす豚頭数で除した値は全国平均を上回っている。

(3) 肥育豚飼養頭数規模別飼養戸数の推移



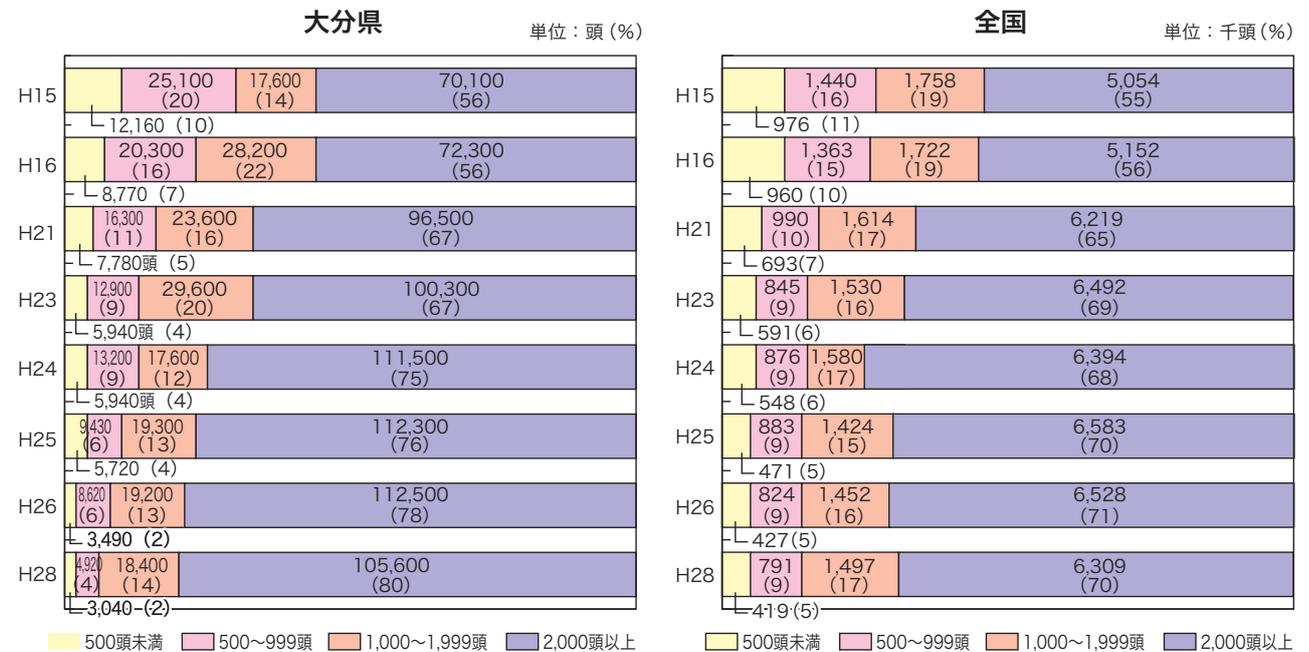
資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 肥育舎：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。

(注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

(4) 肥育豚頭数規模別飼養頭数の推移



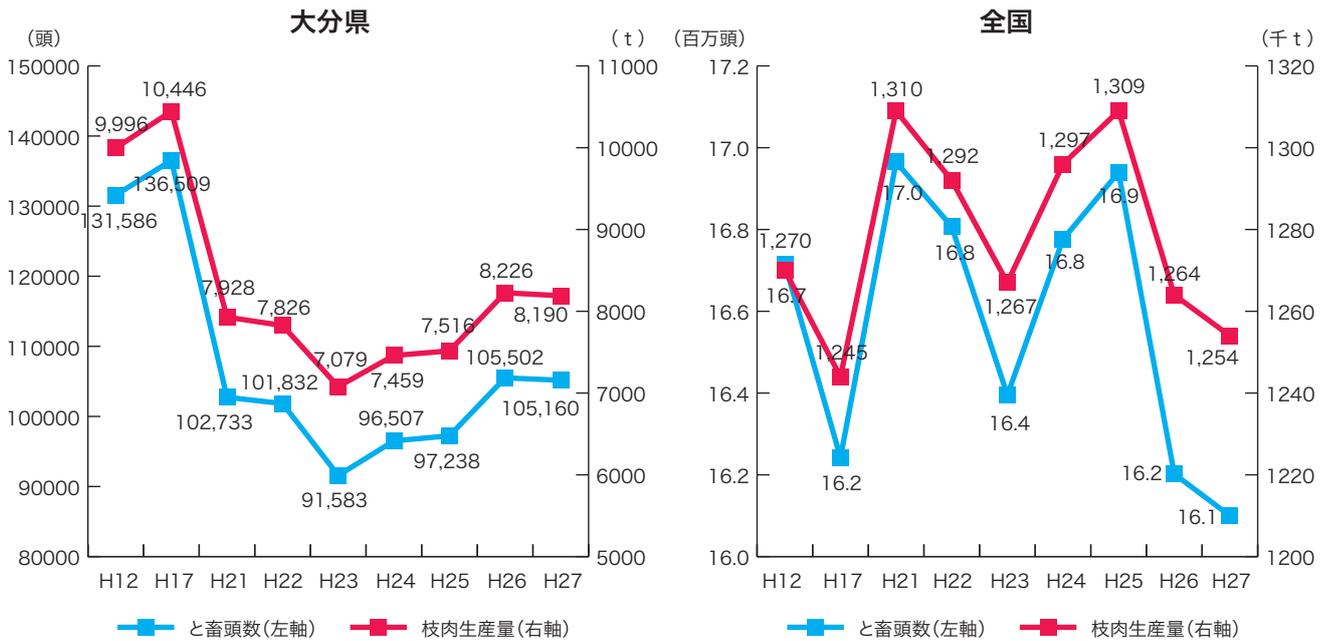
資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 肥育舎：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。

(注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

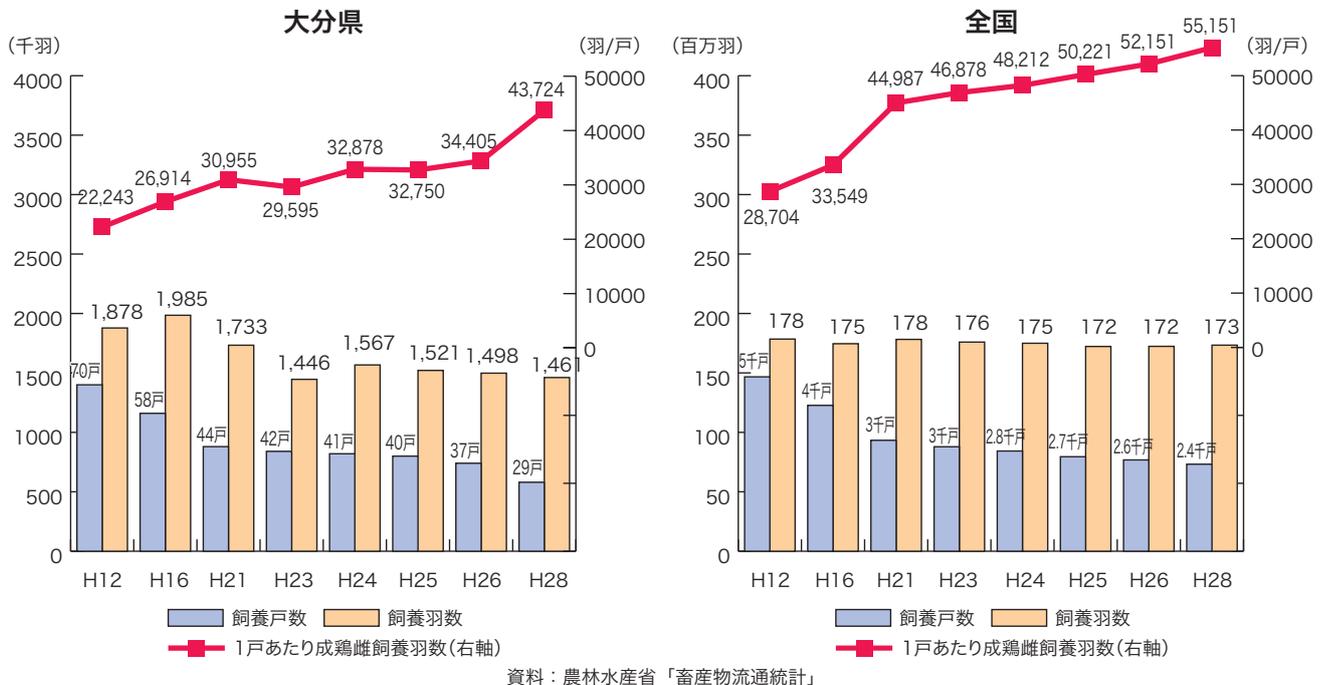
(5) 肉豚のと畜及び枝肉の生産状況



H27年の県内と畜頭数は105,160頭で、前年に比べ342頭 (0.3%) 減少したもののほぼ横ばい。一方で、H28年の県内肥育頭数は119,000頭とH26年に比べ6,600頭 (5.3%) 減少している。

4. 採卵鶏

(1) 飼養戸数・羽数の推移

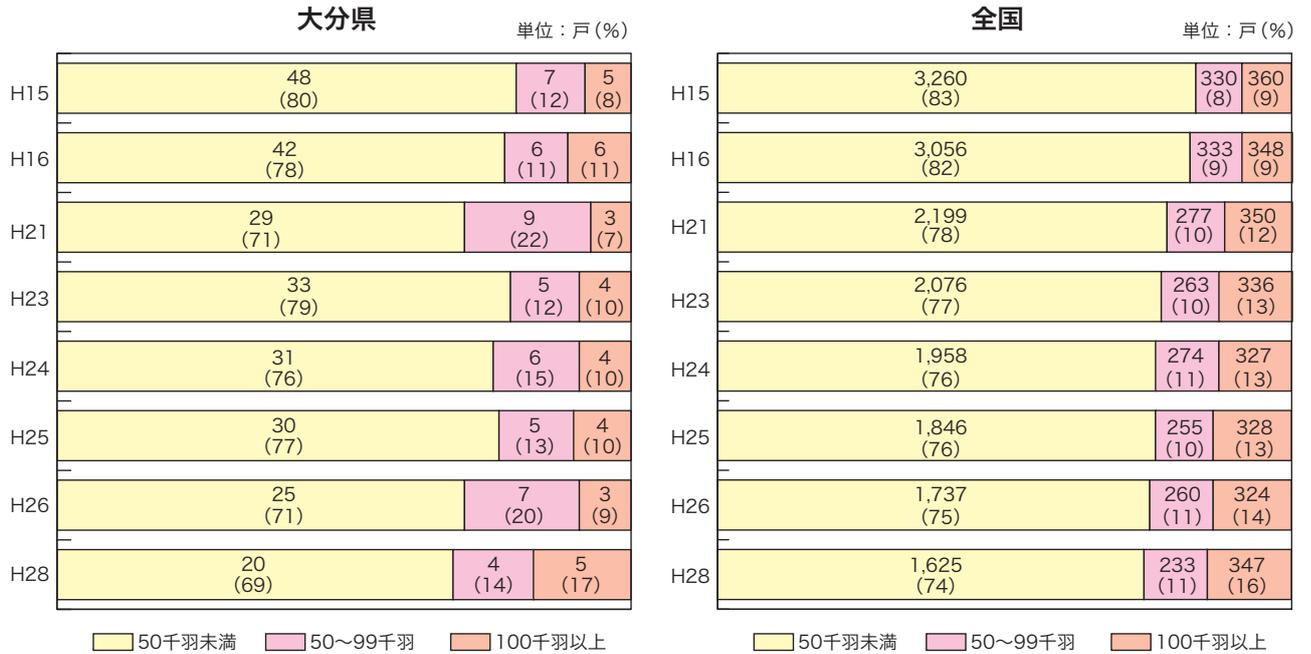


(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表。

(注2) 飼養戸数・羽数は種鶏のみの飼養戸数、種鶏の飼養羽数を除き、成鶏めす羽数は1,000羽未満の飼養戸数・羽数を除く。

H28年の飼養戸数は29戸とH26年に比べ8戸減少し、飼養羽数は1,461千羽で同37千羽 (2.5%) 減少している。1戸あたり成鶏めす飼養羽数は、H26年に比べ9,319羽 (27.1%) 増加し43,724羽となったが、全国平均の55,151羽を下回っている。

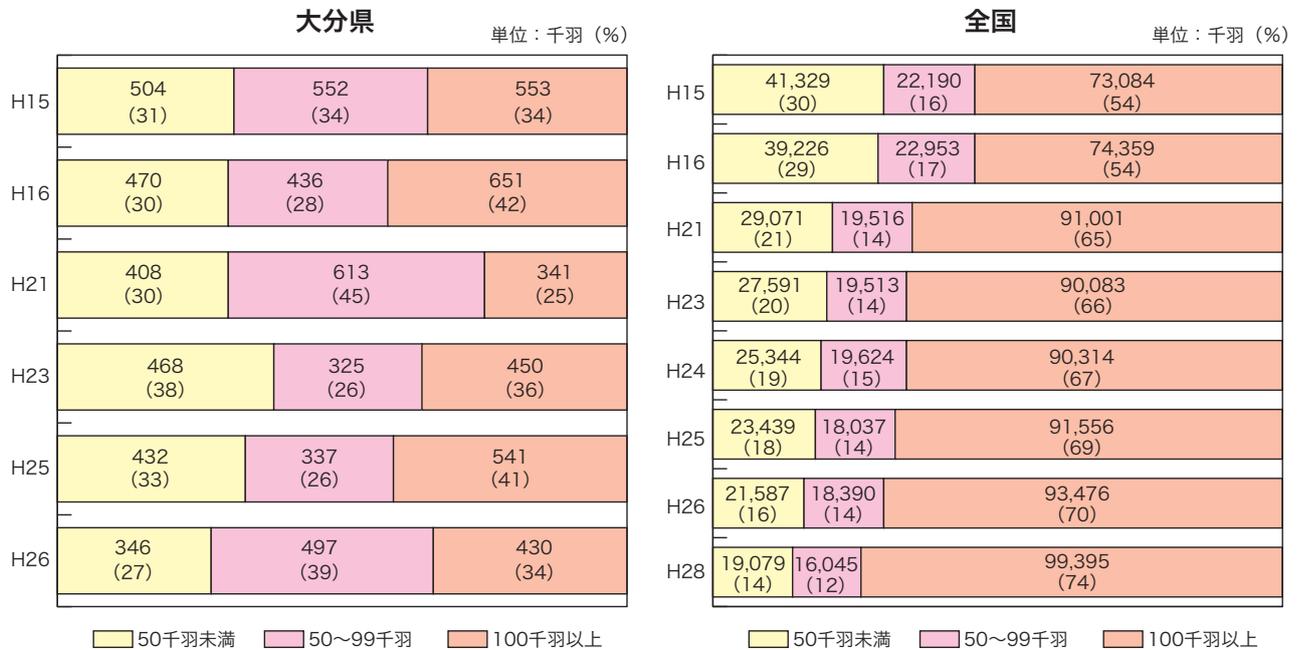
(2) 成鶏めす羽数規模別飼養戸数の推移



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

- (注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表。
 (注2) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。
 (注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

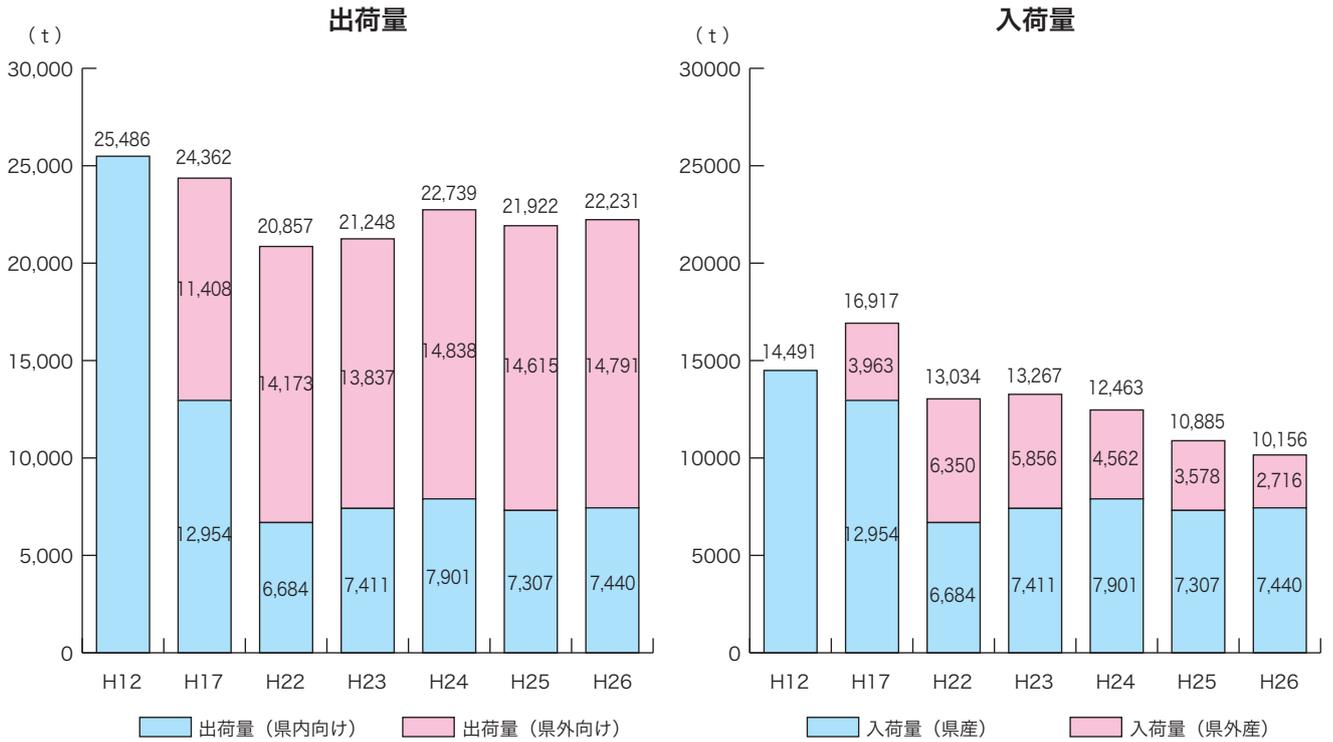
(3) 成鶏めす羽数規模別成鶏めす飼養羽数の推移



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

- (注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表。
 (注2) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。
 (注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。
 (注4) H24年、H28年の大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

(4) 鶏卵の流通状況



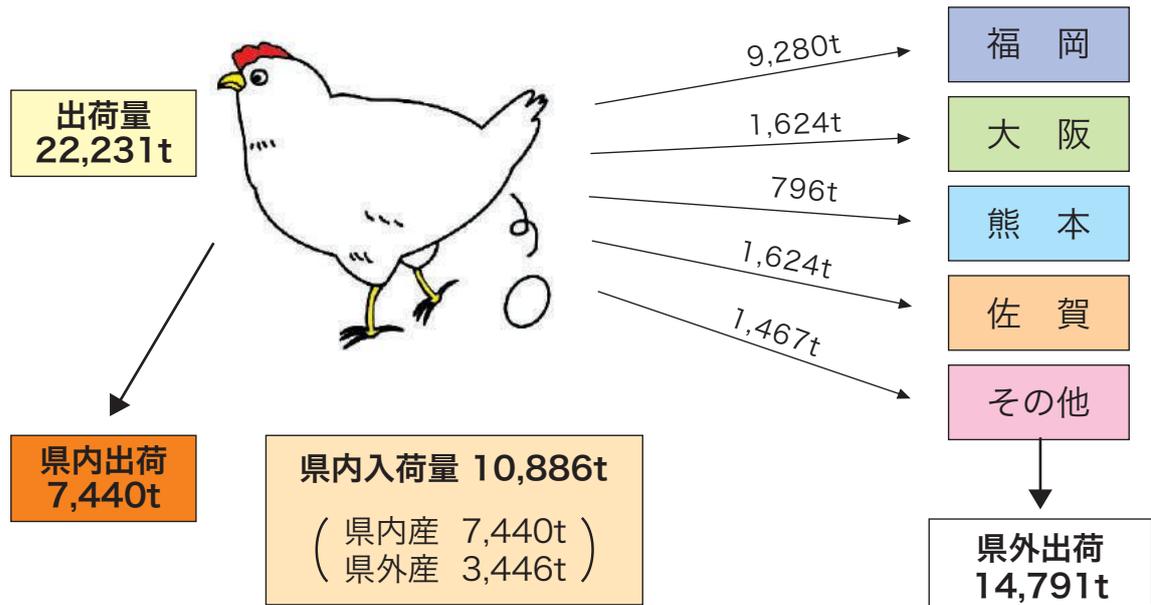
資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) H12年は県内、県外の別が分からないため、出荷量又は入荷量の合計のみを記載

(注2) 鶏卵生産量：一般用食用、加工用、種卵等として生産された鶏の卵をいう。

(注3) 鶏卵出荷量：一般用食品及び加工用として販売した鶏卵の数量をいい、生産者が自家消費した数量及び種卵、その他の数量は出荷量に含まれない。

H26年出荷量は前年に比べ309t (1.4%) 増加している。
 出荷量のうち過半数が県外向けで、H26年は14,791tと全体の66.5%を占めている。
 入荷量は減少傾向にあり、H26年は前年に比べ729t (6.7%) 減少している。
 入荷量に占める県外産の割合は、H26年で26.7%と前年より低下している。

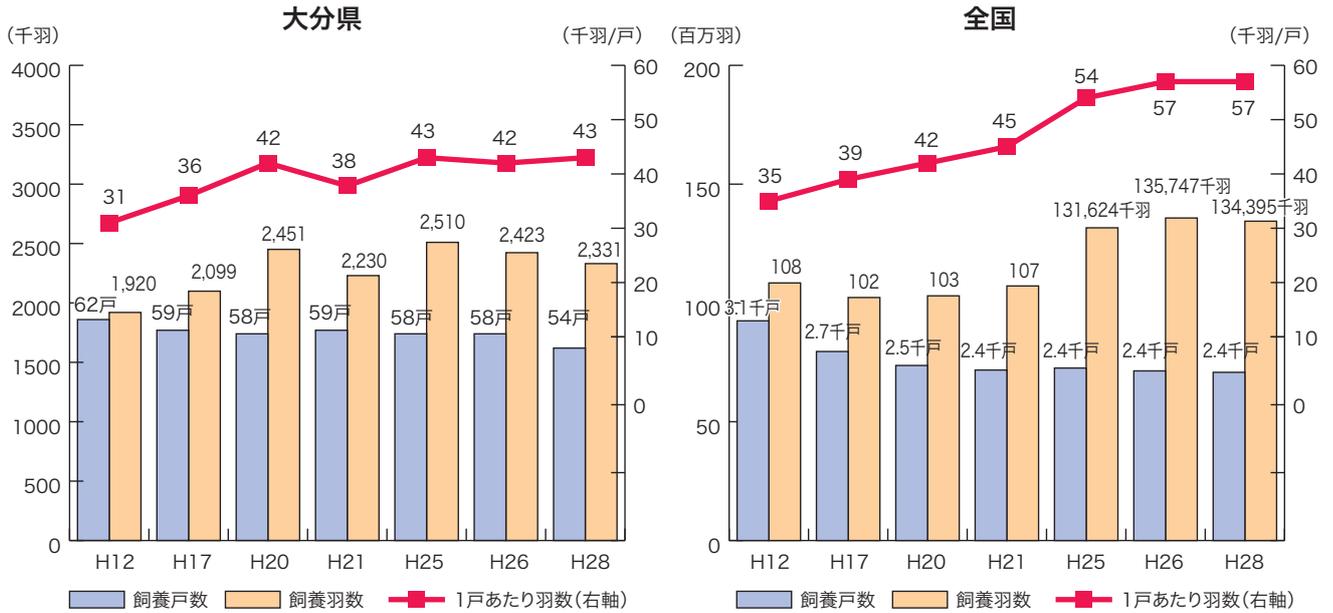


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

※畜産物流通統計における鶏卵の県別調査は平成27年度より行われていないため、平成26年度時点のデータを掲載している。

5. プロイラー

(1) 飼養戸数・羽数の推移



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

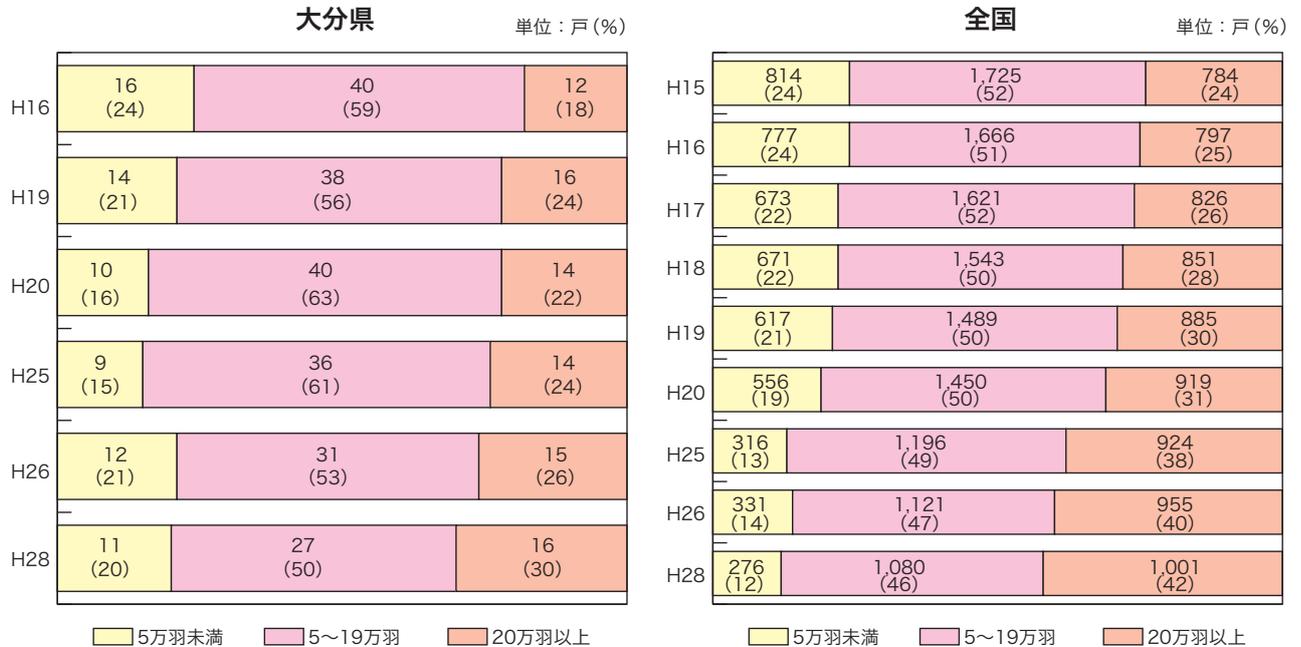
(注1) この統計は、2月1日現在のプロイラー飼養戸数及び飼養頭数を調査したもので、一時的に鶏舎消毒のためオールアウトしていた等により、プロイラーを飼養していない飼養者は除外したものである。

(注2) H22年からH24年までは調査は行われなかったが、H25年から再開されている。

(注3) H27年はセンサス実施年のため未公表。

H28年の飼養戸数は54戸とH26年に比べ4戸（6.9%）減少、飼養羽数は2,331千羽と92千羽（3.8%）減少したが、1戸あたり飼養羽数は1千羽/戸（2.4%）増加した。

(2) 出荷羽数規模別出荷戸数の推移



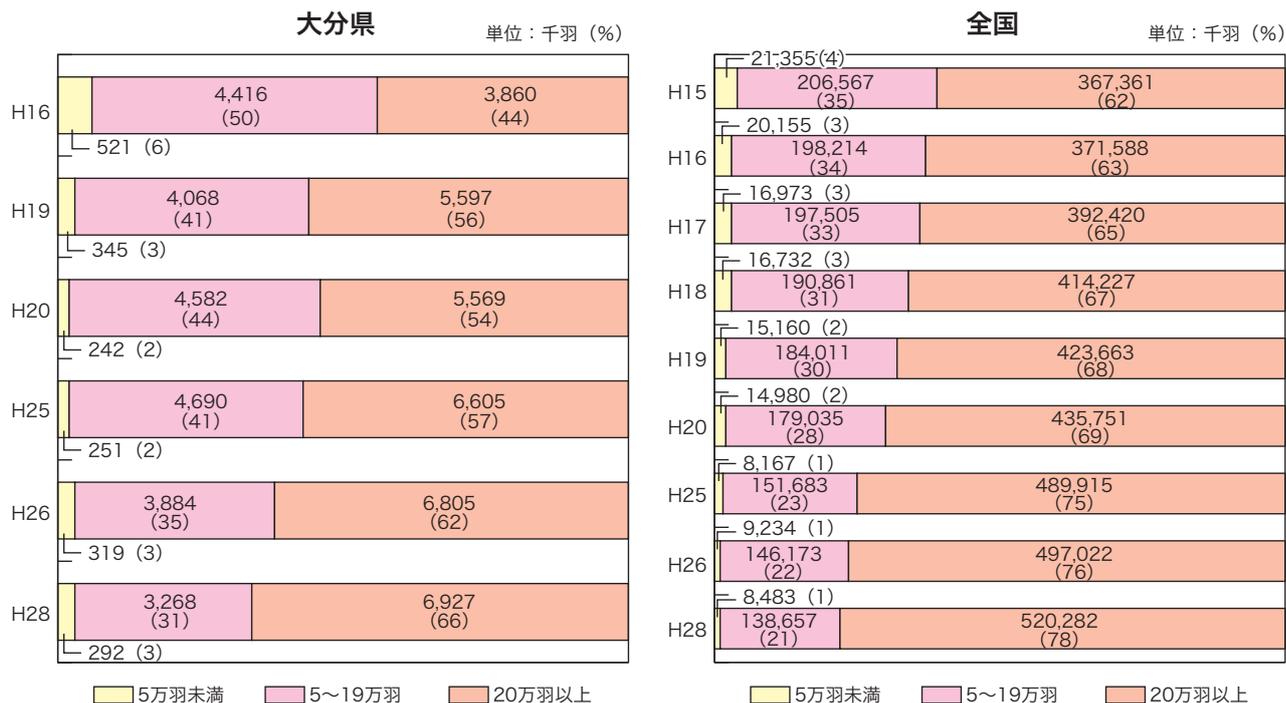
資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) H15,H17,H18年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

(注2) H21年からH24年は調査が行われなかったが、H25年から再開されている。

(注3) H27年はセンサス実施年のため未公表。

(3) 出荷羽数規模別出荷羽数の推移



(注1) H15,H17,H18年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。
 (注2) H21年からH24年までは調査は行われなかったが、H25年から再開されている。
 (注3) H27年はセンサス実施年のため未公表。



おんせん県おおいたフェアでのトップセールス
 (イオンモール京都桂川店)

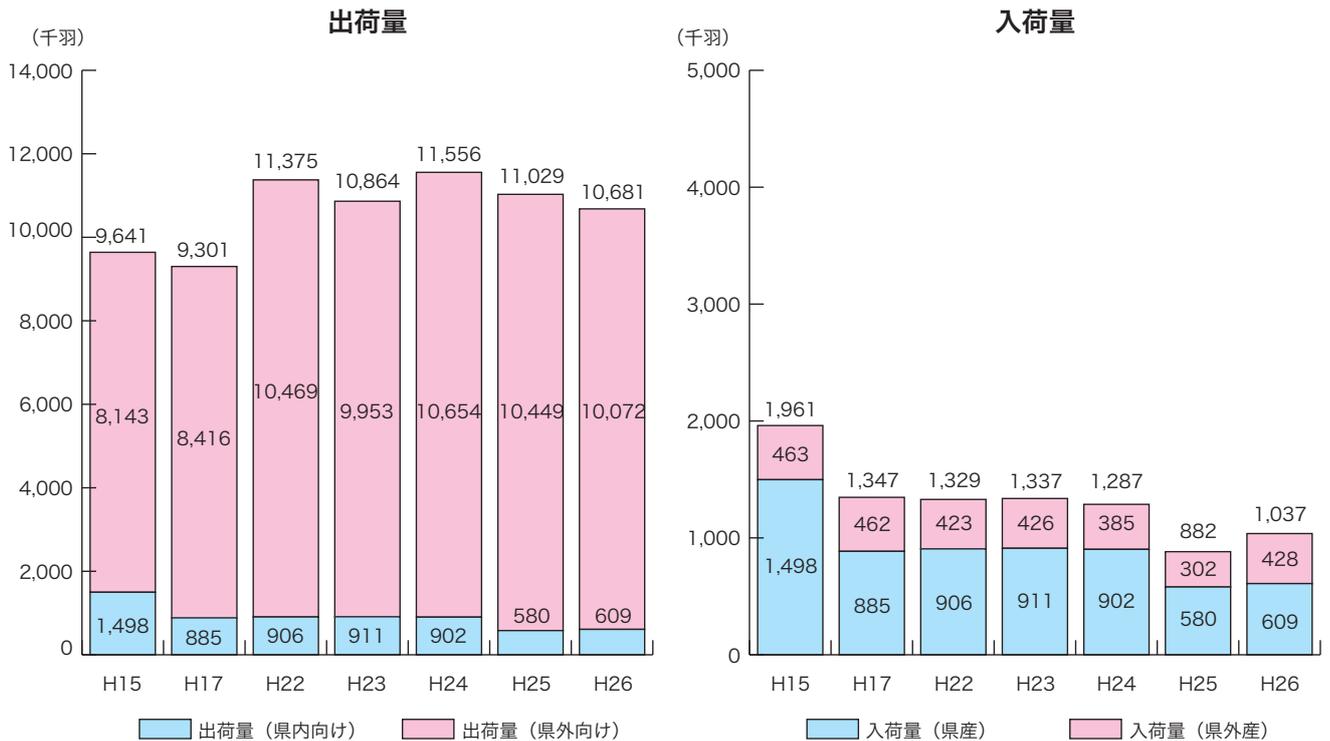


京都市場食彩市における知事による試食PR



大分フェアにおけるおおいた豊後牛出店
 (イトーヨーカドー武蔵小杉店)

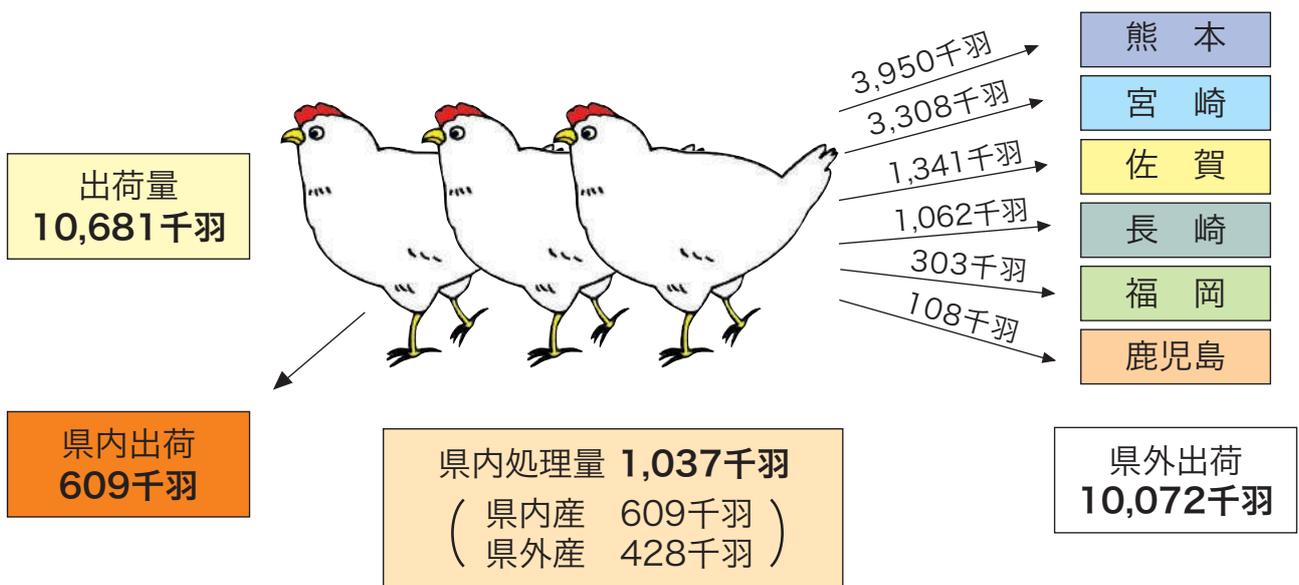
(4) ブロイラーの流通状況



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) 出荷量：飼養から食用に供するために食鳥処理場へ出荷された食鳥（生体）をいい、生産者が自家消費した量は含まれない。
 (注2) 食鳥処理上：食用に供する目的でと鳥処理を行っている事業所（飼養者が自家用としている場合は含まない）のこと。

H26年の出荷量は10,681千羽であり、前年に比べ348千羽（3.2%）減少している。
 出荷先は県外が主であり、26年の県外割合は94.3%となっている。
 H26年入荷量は1,037千羽と前年に比べ155千羽（17.6%）増加した。

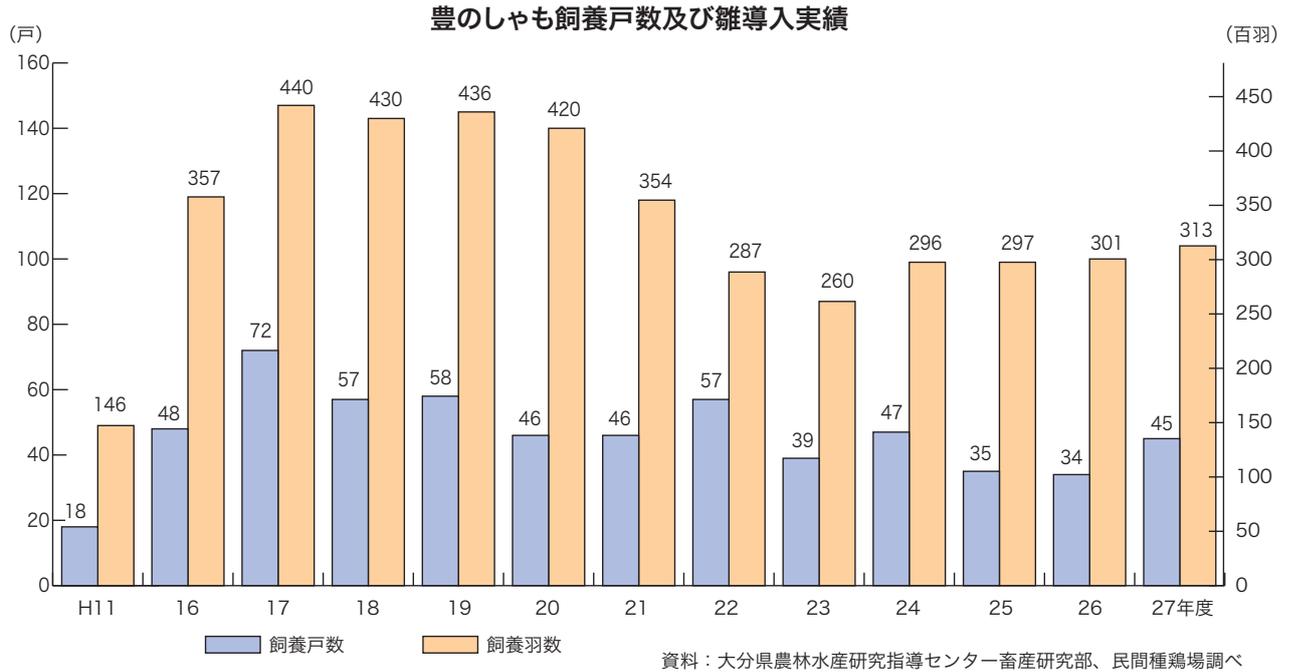


資料：農林水産省「食鳥流通統計」

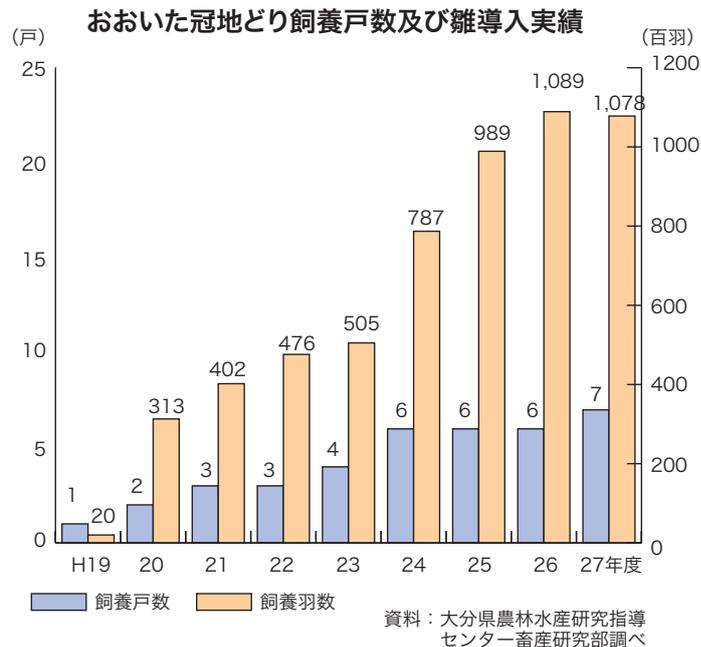
※食鳥流通統計におけるブロイラーの県別調査は平成27年度より行われていないため、平成26年度時点のデータを掲載している。

6. 地鶏

(1) 豊のしゃも



(2) おおいた冠地どり



(3) 地鶏取扱店

①豊のしゃも取扱店 (H28.10現在)

- ・県内卸小売店 15店 (18店：83%)
- ・県内料理店 41店 (44店：93%)
- ・県外卸小売店 9店 (8店：113%)
- ・県外料理店 29店 (24店：121%)
- 計 94店 (94店：100%)

※ ()内はH26年8月時点の店舗数及びH26年8月からH28年10月にかけての伸び率 (%)
 ※取扱店の調査は隔年で実施するため、H27年度は調査していない。

②おおいた冠地どり取扱店 (H28.10現在)

- ・県内卸小売店 80店 (71店：113%)
- ・県内料理店 372店 (288店：129%)
- ・県外卸小売店 53店 (38店：139%)
- ・県外料理店 106店 (56店：189%)
- 計 611店 (453店：112%)

※ ()内はH26年10月時点の店舗数及びH26年10月からH28年10月にかけての伸び率 (%)
 ※取扱店の調査は隔年で実施するため、H27年度は調査していない。

①豊のしゃも

飼養戸数は45戸で、前年に比べ11戸 (32.4%) 増加し、飼養羽数は12百羽の微増となっているが、H17年のピークに比べ、飼養戸数で62.5%、飼養羽数で71.1%まで減少している。

②おおいた冠地どり

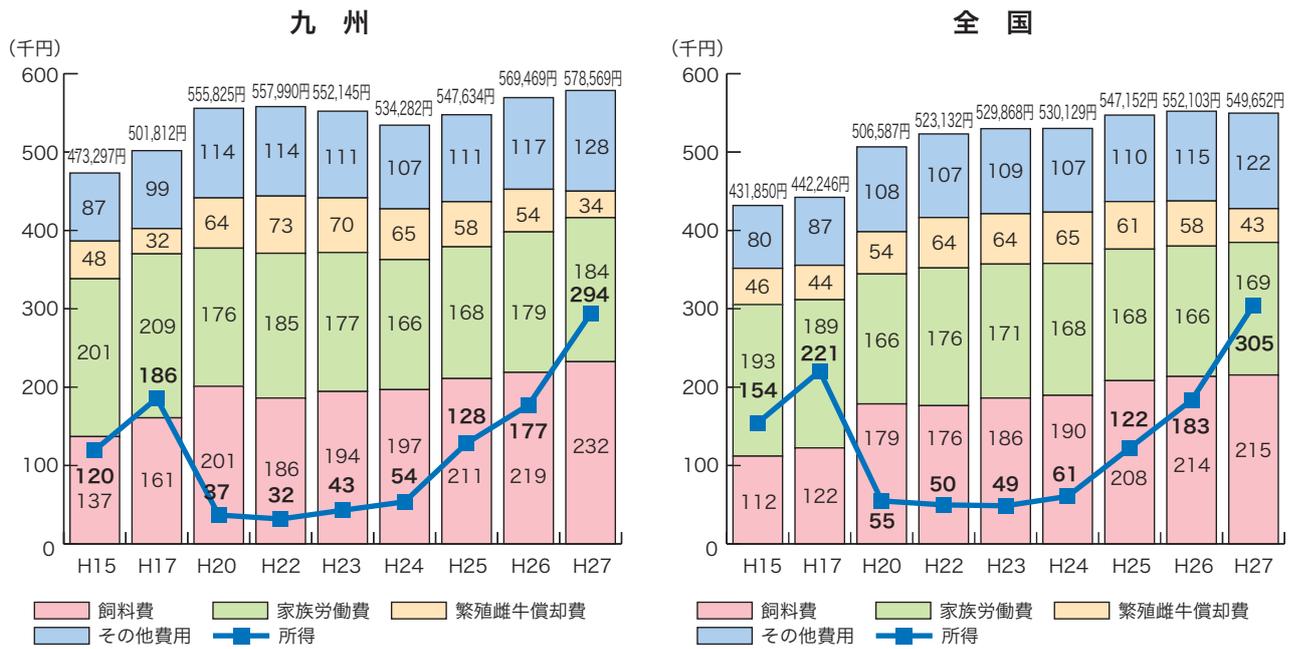
H27年度の飼養羽数は1,078百羽であり、前年に比べ11百羽 (99.0%) 減少している。飼養戸数は1戸増加となっている。

③地鶏取扱店

豊のしゃも取扱店はH26年に比べ横ばいであるが、おおいた冠地どり取扱店の伸びが大きく県内外で610店舗を超えている。

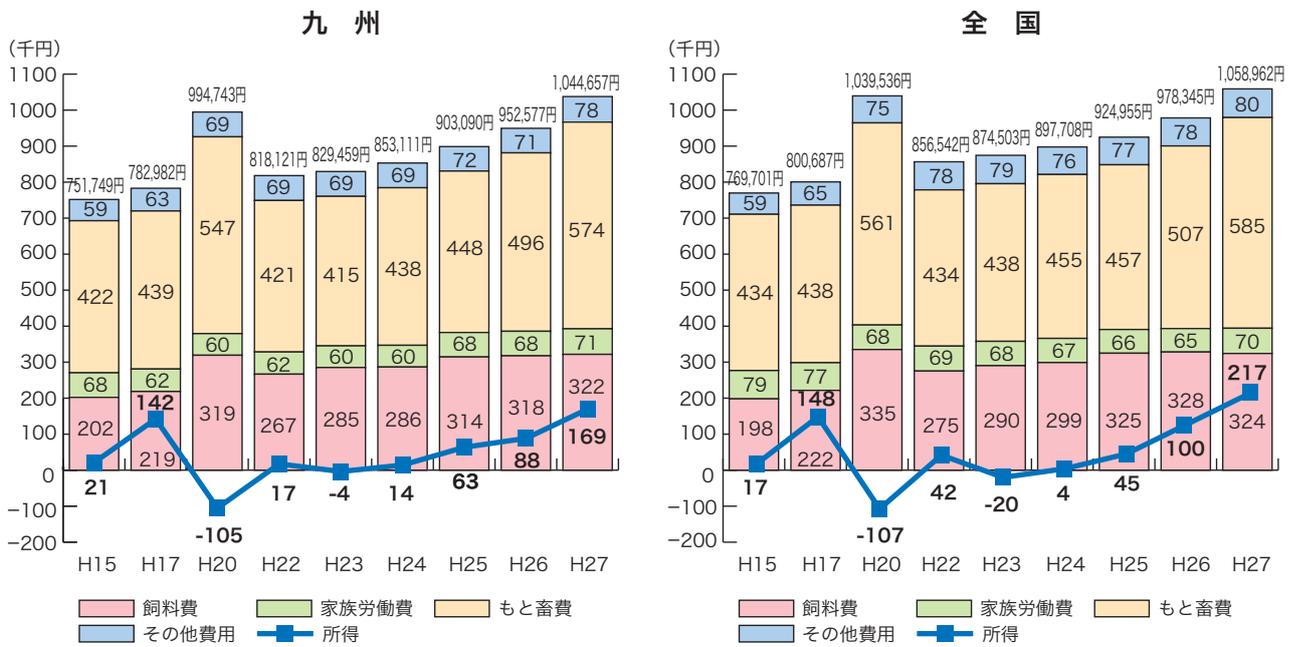
7. 生産費と所得の推移

(1) 子牛の生産費（子牛1頭あたり）と所得（繁殖雌牛1頭あたり）の推移



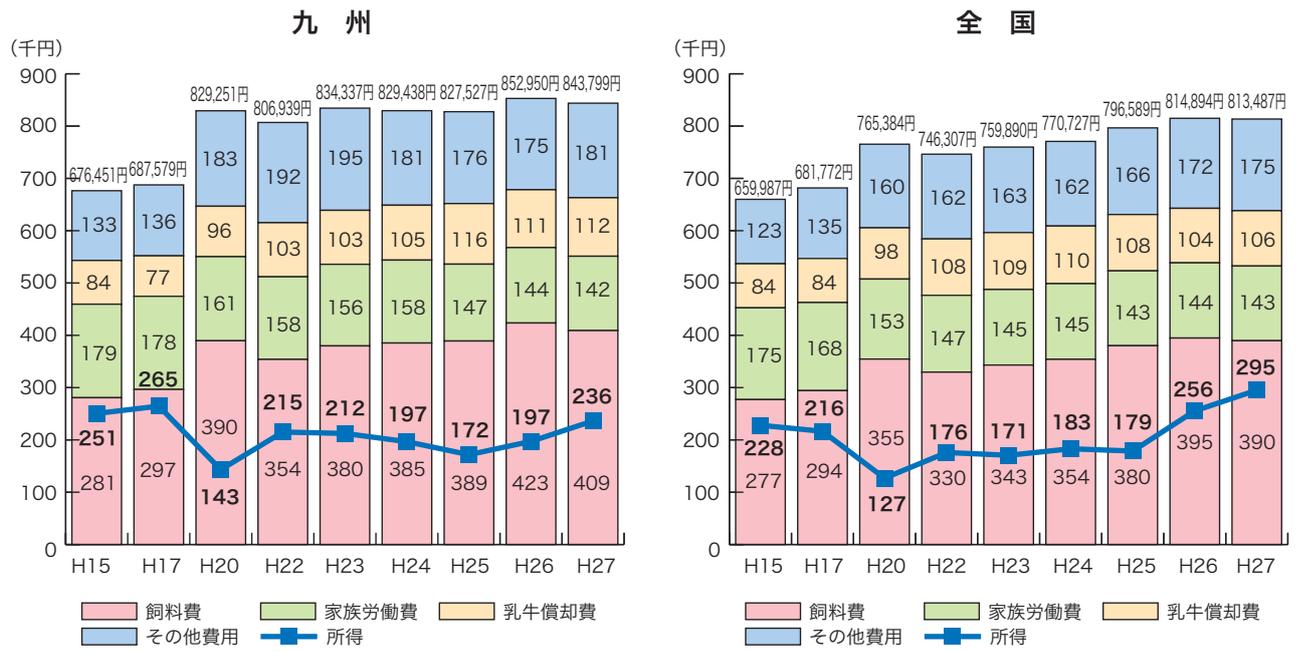
資料：農林水産省「経営統計」

(2) 肥育牛生産費と所得の推移（去勢肥育牛1頭当たり）

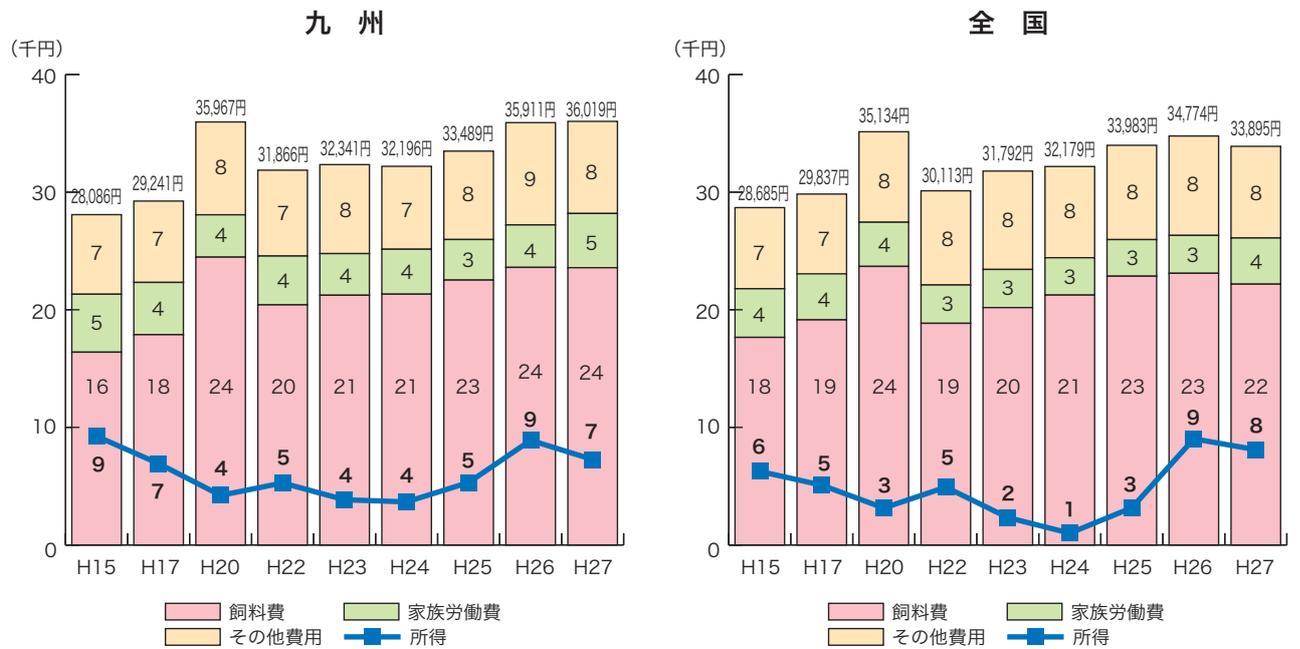


資料：農林水産省「経営統計」

(3) 生乳生産費と所得の推移（搾乳牛1頭当たり）

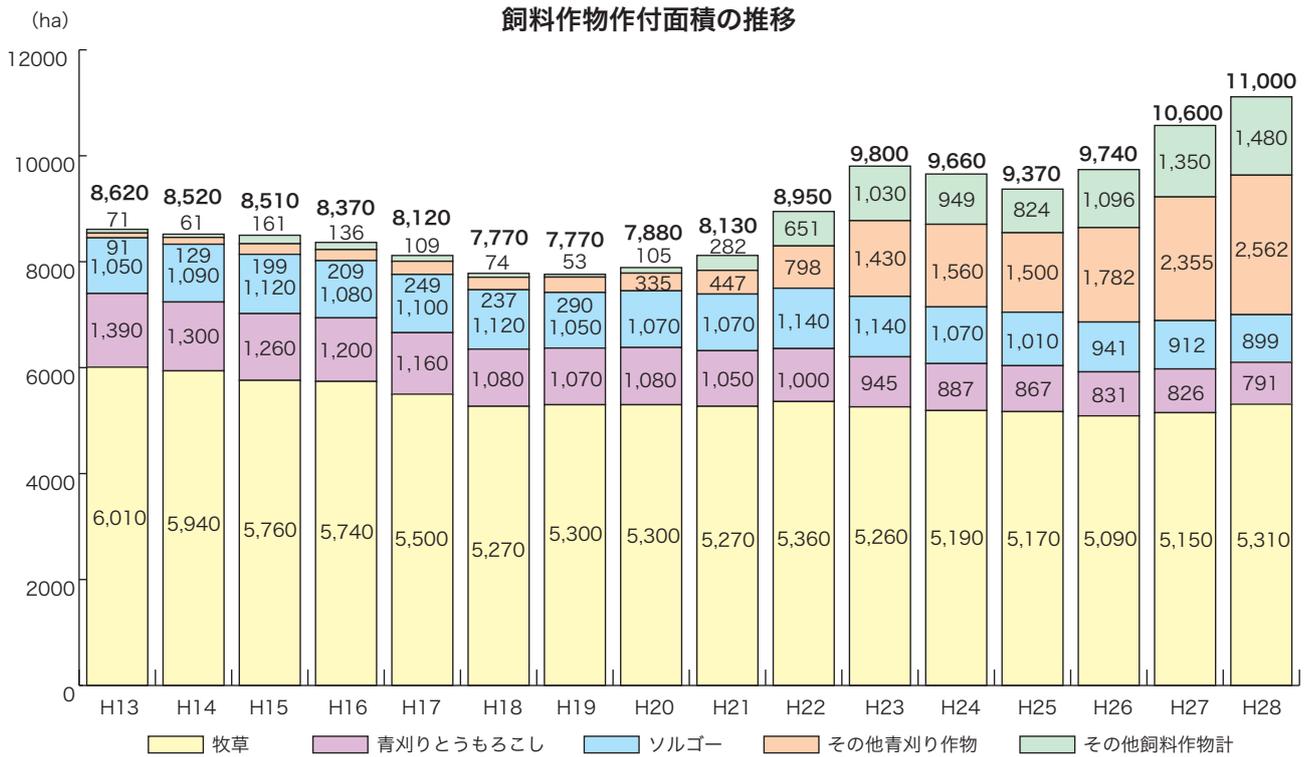


(4) 肥育豚生産費と所得の推移（肥育豚1頭当たり）

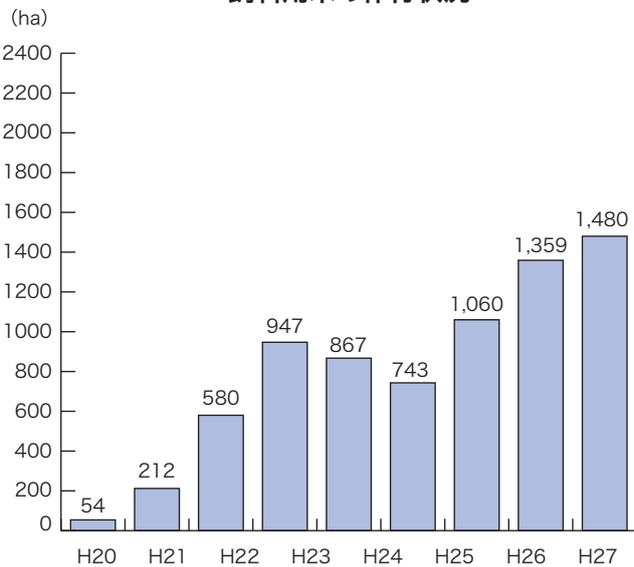


Ⅲ 飼料

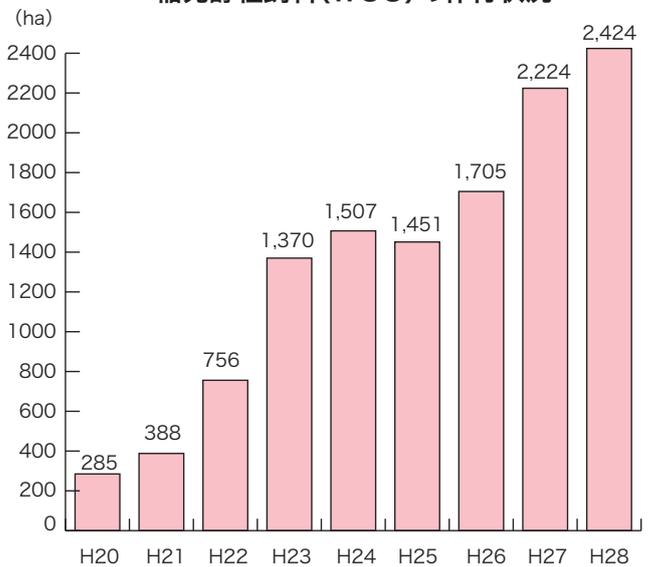
1. 飼料作物作付状況



飼料用米の作付状況



稲発酵粗飼料(WCS)の作付状況



資料：畜産技術室調べ

①飼料作物作付面積

H28年の作付け面積は11,000haであり、前年に比べ400ha（3.8%）拡大した。

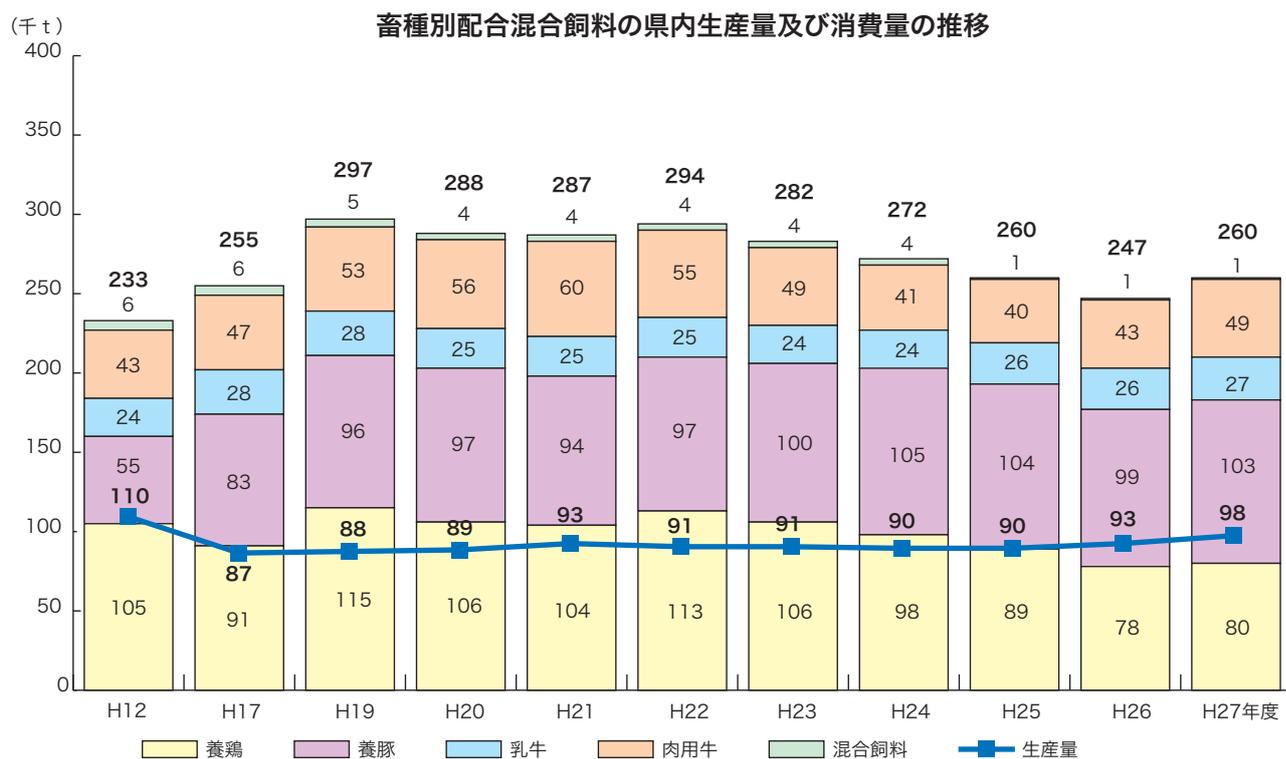
②飼料用米の作付状況

H20年より規模拡大が進み、H24、25年はやや減少したものの、水田活用の直接支払交付金によりH26年から拡大に転じ、H28年は1,480haと、前年に比べ121ha（8.9%）増加している。

③稲発酵粗飼料（WCS）作付状況

H28年の作付面積は2,424haで、前年に比べ200ha（9.0%）増加している。

2. 配合混合飼料



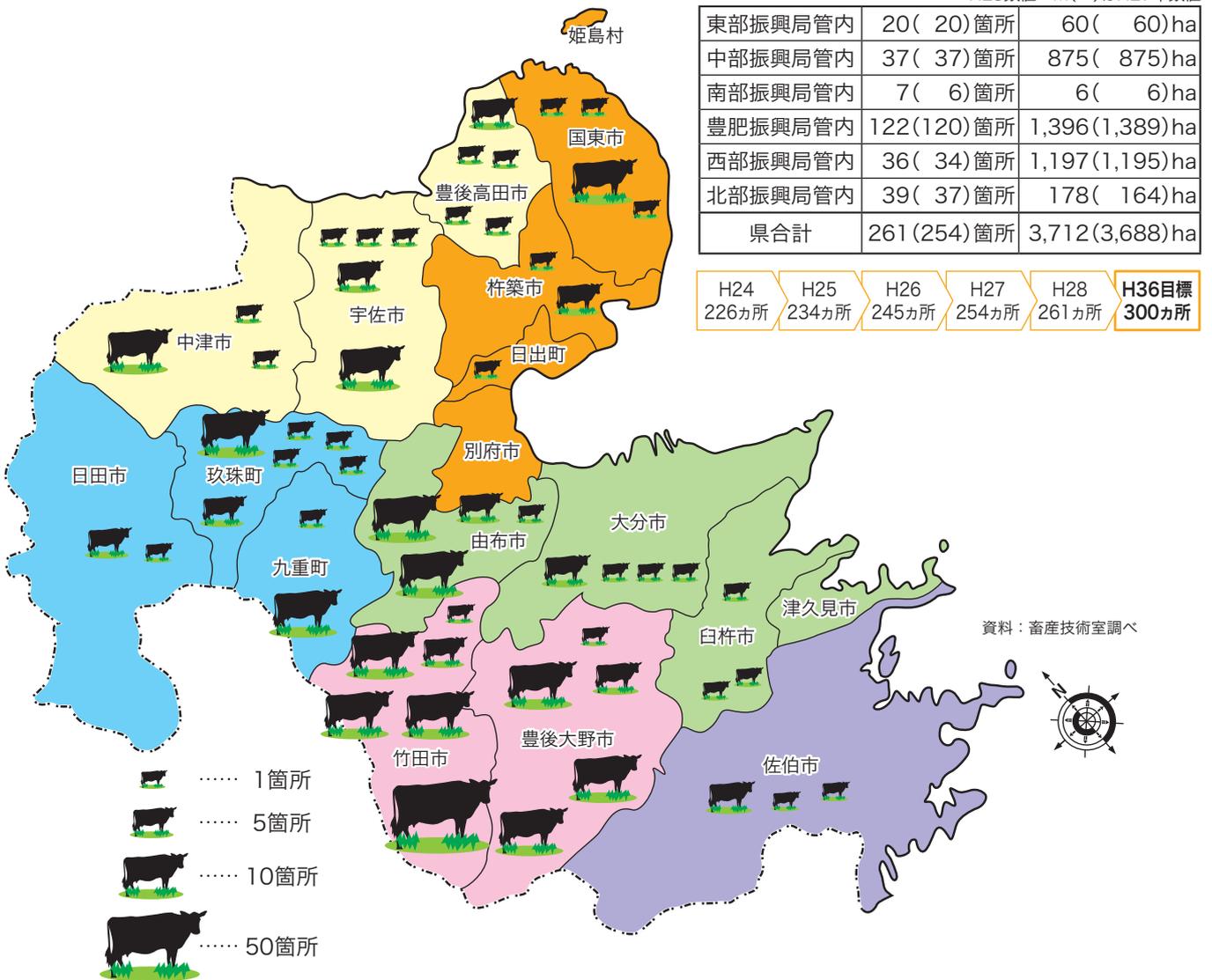
資料：飼料月報

(注) 混合飼料：行政や流通の上から、ある特定成分の補給又は輸入関税の免税措置を受けられることを目的に製造される配合飼料の一種。
 配合飼料：2種類以上の飼料原料を一定の割合で混合した物。我が国では一般に家畜・家さんの種類や飼料目的に応じて、必要な養分を十分含むように市販されているものが多い。
 四捨五入の関係で内訳の計は必ずしも総数に一致しない。

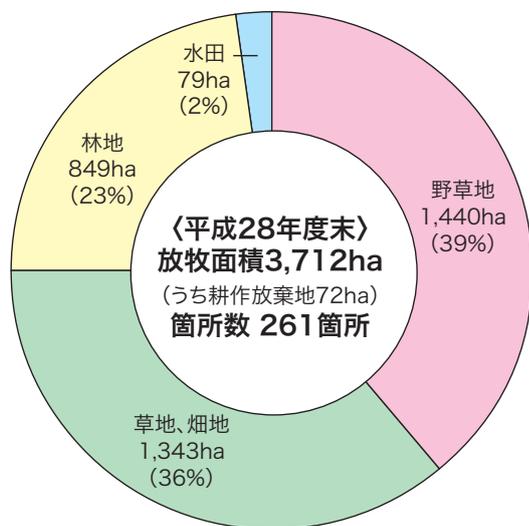
県内の全畜種における配合混合飼料の総消費量はH19年度以降減少傾向であったが、H27年度は260千t（前年比105.3%）と増加した。
 畜種別にみても、全ての畜種で増加している。
 また、配合混合飼料の県内生産量は、ここ数年ほぼ横ばいとなっていたが、H26年度からは増加傾向にある。

3. 放牧取組状況

(1) 大分県における「おおいた型放牧」分布図



(2) おおいた型放牧面積の地目別内訳



おおいた型放牧は耕作放棄地の解消や、繁殖雌牛の飼養管理の省力化を目的として、近年、導入地区が大きく増えている。特に耕作放棄地解消を目的に取り組む例が多く、地目別面積の内訳では野草地1,440ha (39%)と草地、畑地1,343ha (36%)で全体面積の75%を占めている。



シバ型草地における親子周年放牧

IV 家畜衛生・畜産環境

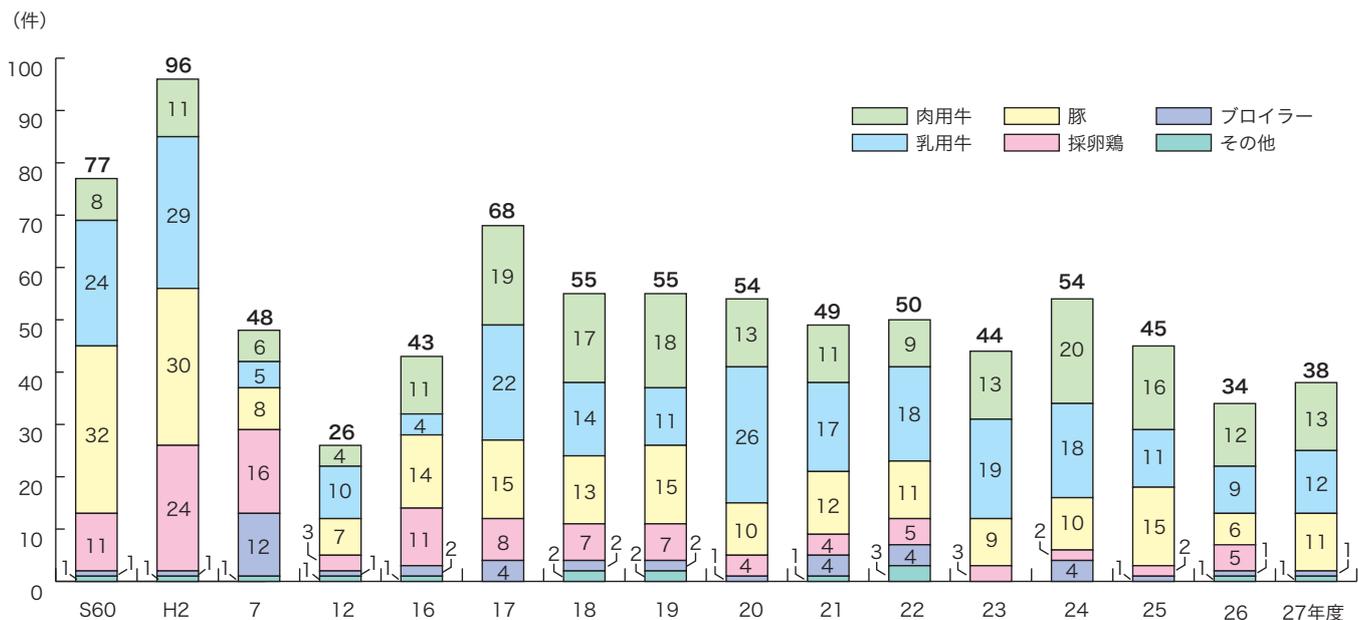
1. 監視伝染病の発生状況

区分	監視伝染病																																						
	法定伝染病										届出伝染病																												
病名 畜種 年次	炭疽	結核病	ヨ―ネ病	性馬貧血	流行性脳炎	ツヌル病	ネラ感染症	家きんサルモ	ンフルエンザ	高病原性鳥イ	ふそ病	TSE	アカバネ病	鼻気管炎	牛伝染性	牛白血病	ルス感染症	病イバラ	破傷風	気腫疽	ネオスポラ症	下痢粘膜炎	牛ウイルス性	キ―エス	胃腸炎	性豚下痢	豚丹毒	サルモネラ症	マレック病	気管性喉頭	ロイコチゾン	鶏痘	悪性カタル熱	レプトスピラ症	豚PRRS	豚赤痢			
	牛・豚	牛	牛	馬	豚	鶏	鶏	鶏	鶏	鶏	豚	羊	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	豚	豚	豚	豚	牛・豚	鶏	鶏	鶏	鶏	牛	犬	豚	豚			
S50				2		1,697				291										10																			
51				1		120				80																													
52																																							
53																																							
54																																							
55																										1,843													
56																																							
57	1																								4,011														
58						19,427				66															1,584		1												
59										3																	10												
60										113																	37												
61										29																	5												
62																		19	3								14												
63																											16												
H元																											15												
2		1								10										2					36		18												
3																				3						12													
4																										12													
5																										12													
6																										12													
7																										12													
8																										11													
9				3														2								30	17												
10												11	1	17	2											6													
11											21		31	10					2							4	2	69	1,600										
12													19						1	8	1						2												
13			1																2								3								1	2			
14			1																							42	110										1		
15			13										14	61					1		2				150	127	48	2											
16			8				7		1				3	53				1	1	1	1	1				76	4									1			
17			2											49												84	5	9											
18			10						1			12		71												102	3	6										4	
19			5									1		30												66													
20			5											38						1						90	9												
21			9									2		42					2							149	5				6	100					2	7	
22			6						1				1	44					2							136	2									1			
23			9					9			1		1	52					1							57	2												
24			4											30												43	7												
25			1											39					3							28		8											
26			5											25					4		1					9427	112	3											
27									2					31					3							450	242	1											2

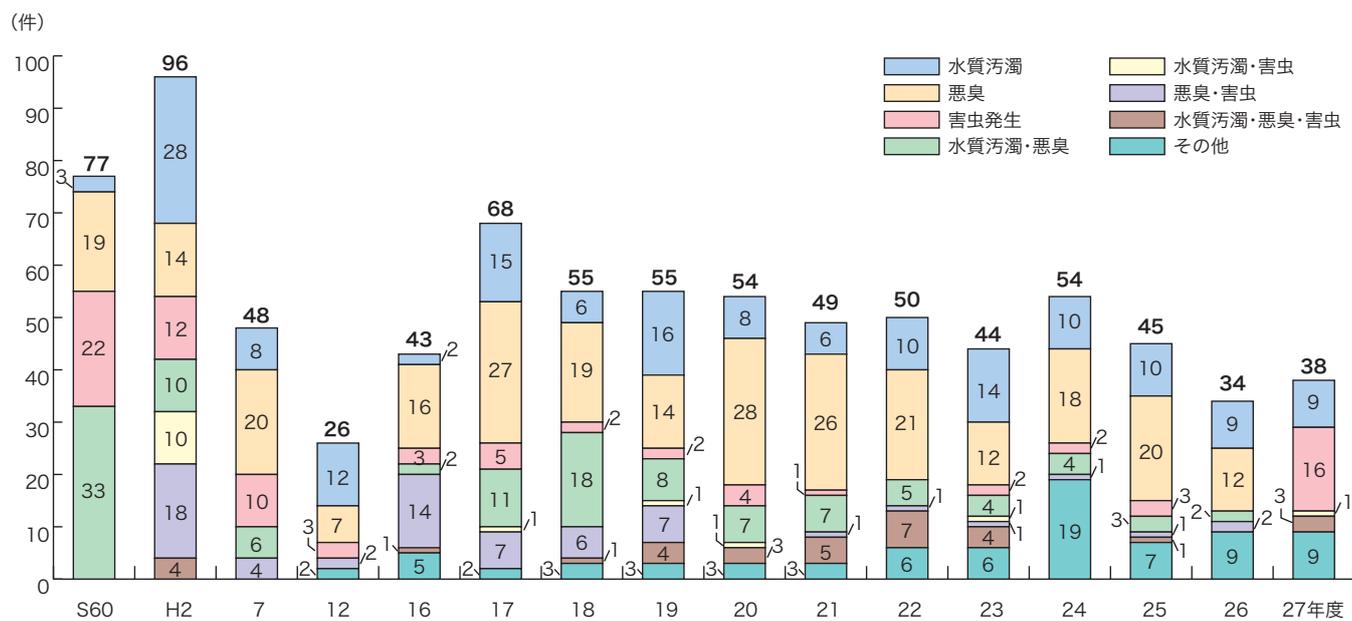
※印の疾病は平成9年度まで法定伝染病
資料：畜産振興課調べ

2. 環境汚染問題畜種別発生件数

(1) 畜種別苦情発生件数



(2) 種類別苦情発生件数



広瀬知事を本部長とする県総合対策本部会議



防護服の装着訓練

V 平成29年度大分県畜産関係補助事業等（抜粋）

当該ページでは、大分県畜産関係予算のうち主要なものを掲載・紹介しています。

全てのメニュー等を網羅しているものでも、採択基準の全てを示しているものでもありませんので、詳細等については各振興局農山（漁）村振興部企画・農政班(南部振興局にあっては企画・農政・集落班)又は、各担当班あてお問い合わせいただけるようお願いいたします。

1 畜産振興課関係補助事業等

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
NEW! 肉用牛	肉用牛新たな担い手支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・リース型畜舎整備事業 ・共同利用堆肥舎整備事業 ・家畜導入事業 	繁殖経営の新たな担い手を確保するため、畜産クラスター計画に基づき市町村等が行う新規就農者向けリース畜舎等の施設整備や家畜導入に支援する。	畜産企画班
NEW! 肉用牛	ICT活用スマート畜産体制整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖管理クラウドシステム整備事業 ・スマート畜産プロジェクト推進事業 	繁殖雌牛の分娩間隔の短縮による収益性向上を図るため、人工授精や妊娠鑑定の日など、個体毎の繁殖状態を畜産農家と関係機関が常時把握できるクラウドシステムの開発・運用を支援する。	畜産企画班
肉用牛 養豚	畜産物価格安定対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・肉用牛肥育経営安定対策事業 ・生産者積立金助成事業 ・肉用子牛生産者補給金制度 ・肉豚価格安定対策事業 	畜産経営の安定を目的として、肥育牛・肉豚では粗収益が生産費を下回った場合、子牛では販売価格が合理化目標価格を下回った場合の補給金等を交付するための生産者積立金の造成を支援。 【事業主体】(公社)大分県畜産協会	畜産企画班
NEW! 肉用牛 酪農	畜産物流通促進対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・おおいた豊後牛流通促進対策事業 ・牛乳消費拡大推進事業 	「おおいた豊後牛」のブランド向上を図るため、県内外でのフェアの開催や小売店・飲食店等への販促活動を支援するとともに、牛乳の消費拡大を図るため、酪農体験教育等の取り組みに対し支援する。	流通推進班
NEW! 養豚	県産豚「米の恵み」競争力強化対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県産豚肉統一ブランド流通対策事業 ・大分県産豚肉ブランド確立対策事業 	県内養豚農家の所得向上を図るため、オレイン酸に着目し新たな統一ブランドとして立ち上げた「米の恵み」の販促活動等に対して支援する。	流通推進班
NEW! 全般	畜産農場 HACCP 認証取得推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・農場HACCP取得推進委託事業 	畜産農場における農場 HACCP 認証取得を推進し、農場 HACCP と食品処理過程の HACCP 管理方式を連動させた安全・安心な生産流通体制の整備をすることで他産地との差別化や輸出の拡大を図る。	衛生環境班
全般	獣医師確保対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医師確保特別修学資金給付事業 ・獣医系大学インターンシップ事業 	獣医師確保を目的とした、大学卒業後に大分県内で公務員獣医師又は産業動物診療獣医師になることを条件とした給付金の給付や、家畜保健衛生所等県機関でのインターンシップに係る経費に対する補助。 【事業主体】(公社)大分県畜産協会	衛生環境班

2 畜産技術室関係補助事業等

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	肉用牛生産基盤拡大支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖雌牛基盤拡大対策 ・肥育牛預託緊急支援対策 ①素牛預託 ②飼育管理預託 	肉用牛の生産基盤を強化するため、繁殖雌牛の増頭経費の一部を支援するとともに、大分県畜産公社が行う肥育預託貸付制度の素牛預託に加え、管理経費を支援する飼育管理預託に取組むことで、「おおいた豊後牛」の安定供給とブランド確立を図る。 【事業主体】(繁殖)市町村、(肥育)(株)大分県畜産公社	生産振興班

2 畜産技術室関係補助事業等（前ページからの続き）

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	肉用牛競争力強化対策事業	・肉用牛生産基盤強化施設整備事業 (競争力強化対策)	持続可能な肉用牛生産基盤の確立に向け、畜産クラスター計画に基づく地域内連携による収益向上に向けた畜舎等の整備に対して支援。 【事業主体】畜産クラスター協議会	生産振興班
		NEW! ・出品選抜強化事業	生産基盤を支える中心的担い手を育成するため、規模拡大のための施設や省力化機械の整備に対して支援。 【事業主体】市町村	
NEW! 肉用牛	第11回全国和牛能力共進会対策事業	・おおいた豊後牛品質向上対策 ・技術指導強化	平成29年9月に開催される第11回全国和牛能力共進会に対する出品対策の強化に係る取組に対して支援。 【事業主体】第11回全国和牛能力共進会大分県推進協議会	生産振興班
肉用牛	スーパー豊後牛作出対策事業	・肉用牛育種改良推進事業委託事業	生産者組織や関係機関が一体となって肉用牛の育種改良を推進するため、種雄牛造成のための指定交配推進や技術研修会の開催等を委託する。 【大分県肉用牛改良組合連合会】	生産振興班
NEW! 酪農	酪農基盤対策事業費	・競争力強化対策事業	畜産クラスター計画に基づき、中心的な経営体が規模拡大等による生乳生産量を確保するため、施設及び機械等を整備する費用に対して助成する。 【事業主体】畜産クラスター協議会	酪農・飼料班
		・後継牛能力向上対策事業	優秀な乳用後継牛を計画的に確保するため、遺伝子検査技術を活用した高能力の雌雄判別精液の利用に対し助成。 【事業主体】大分県酪農業協同組合	酪農・飼料班
		・経営体育成対策事業	酪農経営体の育成を図るために開催する研修会等に要する経費を助成。 【事業主体】大分県酪農業協同組合	酪農・飼料班
酪農	酪農経営生産性向上対策事業	・酪農支援対策施設整備事業	酪農経営の安定と所得確保を目的として、生産性向上に必要な省力化やカウコンフォート等に係る施設等整備を支援。 【事業主体】市町村及び大分県酪農業協同組合	酪農・飼料班
		・乳用優良雌牛貸付事業	中核的酪農家の育成を目的として、酪農家を対象とした乳用優良雌牛の貸付に対して支援。 【大分県酪農業協同組合】	酪農・飼料班
養鶏	おおいた冠地どり流通拡大対策事業	・販路拡大・知名度向上対策 ・生産性・収益性向上対策	県が平成19年度に作出した「おおいた冠地どり」の流通拡大とブランド化を図るため量販店や都市圏における大型の新規販路の開拓や生産性向上に必要な施設の改修や機械等の整備を行う。	生産振興班
飼料	草地畜産基盤整備事業	・草地畜産基盤整備事業	「安全」「安心」な自給飼料の活用促進及び規模拡大等による担い手の経営改善を進めることを目的として、飼料生産基盤の整備及び畜舎等の整備に対する補助。 【事業主体】(公社)大分県農業農村振興公社	酪農・飼料班
飼料	県内飼料利用拡大対策事業	・飼料用米SGS(ソフトグレインサイレージ)等の普及推進	SGSの生産拠点構築のため、検討会やSGS調製・給与実証に取り組む協議会を支援。 【事業主体】市町	酪農・飼料班

(注) 詳細等については、各振興局農山(漁)村振興部企画・農政班(南部振興局にあっては企画・農政・集落班)又は各担当班までお問い合わせいただけます。

3 畜産振興課及び畜産技術室関係予算等のうちピックアップ事項

酪農・肉用牛生産近代化計画

(概要) 国の基本方針に沿って、大分県の酪農及び肉用牛生産を総合的に振興するため、平成37年度を目標として計画を策定。

「人・牛・飼料」の視点での基盤強化に対する取組を中心として、新たに畜産クラスターの活用を追加。

新たな「大分県酪農・肉用牛生産近代化計画」(概要版)

1 目的(趣旨)

- (1) 酪農及び肉用牛生産に関する法律(昭和29年6月14日法律第182号)に基づき、国が「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」を策定し、この基本方針に沿って県計画を策定する(本計画は目標を10年後に設定し、5年毎に見直しを行う)
- (2) 市町村における酪農及び肉用牛生産の合理的な発展を図るため、県計画に基づいて市町村計画を作成する
- (3) 今回の計画策定に当たり、新たに「人・牛・飼料」の視点での基盤強化及び畜産クラスターの活用を盛り込むことが求められた

2 基本計画で定める事項

(1)酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

- ① 担い手の育成と労働力負担の軽減に向けた対応
- ② 乳用牛・肉用牛飼養頭数の減少への対応
- ③ 自給飼料生産基盤の確立
- ④ 家畜衛生対策及び畜産環境対策の充実・強化
- ⑤ 畜産クラスターの取組等による畜産と地域の活性化
- ⑥ 畜産物の安全確保、消費者の信頼確保、ニーズを踏まえた生産・供給の推進

(2)生乳の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の飼養頭数の目標

- 【乳用牛】 経産牛頭数、年間搾乳量
 【肉用牛】 繁殖雌牛頭数、肥育牛頭数

(3)近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標…目指すべき経営形態について記載

- 認定農業者の目標(所得400万円/年、労働時間2,000時間/年)が基準

(4)乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項…戸別の経営規模拡大に関する目標及び取組について記載

(5)飼料の自給率の向上に関する事項

- ・飼料増産と利用向上の取組

(6)集乳及び乳業の合理化並びに肉用牛の流通の合理化に関する事項

- ・食肉処理加工施設(畜産公社)の再編整備

(7)その他酪農経営及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

- ・畜産クラスターの推進方針

3 「人・牛・飼料」に基づく目標

① 人(担い手・労働力の確保)

【担い手の育成と労働負担の軽減】

- ・新規就農の確保と担い手の育成
- ・放牧活用の推進
- ・外部支援組織の活用の推進
- ・省力化機械の導入推進

② 牛(飼養頭数の確保)

【乳用牛・肉用牛飼養頭数の減少への対応】

- ・生産構造の転換等による規模拡大
- ・肉用牛生産における肥育期間の短縮
- ・計画的な乳用後継牛の確保と和子牛生産の拡大
- ・乳用牛の供用期間の延長
- ・需給環境の変化に応じた家畜改良の推進
- ・牛群検定の加入率の向上

③ 飼料(飼料費の低減・安定供給)

【自給飼料生産基盤の確立】

- ・県産粗飼料の生産・利用拡大
- ・放牧活用の推進
- ・飼料用米等県産飼料穀物の生産・利用の拡大
- ・エコフィードの生産・利用の促進

5 畜産クラスターの取組

- 〈畜産農家を核とし、耕種・食品産業等も含めた関係者が連携・協力し、地域全体で畜産の収益性向上を図る取組〉
- ・畜産クラスター組織の設立を推進
 - ・中心的な役割を担う畜産経営体等の施設、機械等の整備を支援

4 具体的取組

(新長期総合計画、新農林漁業振興計画、肉用牛振興計画、酪農振興計画に基づく取組み)

- ・遊休施設の利活用、円滑な経営継承システムの整備
- ・レジャカ制度等を活用したおおいた型放牧の推進
- ・キャトル・フリーディング・ステーションの整備、乳用後継牛預託システムの確立、ヘルパー組織の活用等によるワークライフバランスの構築
- ・コントラクターやTMRセンターに対する機械整備の推進
- ・自動給餌機等、省力化機械の導入推進

- ・肥育牛預託事業を活用した増頭
- ・繁殖・肥育一貫経営の推進による増頭
- ・キャトル・フリーディング・システム及び後継牛預託システム等、管理作業の外部化により、飼養頭数の増加推進
- ・個体能力に応じた効率的な肥育及び適期出荷
- ・性別別精液や受精卵移植技術の活用
- ・乳用牛の供用期間の延長(3.1産→3.5産)

- ・コントラクターの育成、TMRセンターの機能強化
- ・稲発酵粗飼料(WCS)等、良質国産粗飼料の生産・利用拡大
- ・多収米品種・栽培技術の普及
- ・ソフトグレインサイレージ(SGS)等、新たな濃厚飼料原料の生産促進
- ・畜産業と食品産業との連携により、食品残さを原料としたエコフィードの生産・利用拡大

6 酪農及び肉用牛生産目標(平成37年度目標)

【酪農】

- ・経産牛頭数 9,370頭(H25) → 10,700頭(H37) ※H25対比114.2%
- ・総飼養頭数 14,100頭(H25) → 15,500頭(H37) ※H25対比109.9%
- ・年間搾乳量 8,528kg/頭(H25) → 9,000kg/頭(H37) ※H25対比105.5%
- ・生乳生産量 82,120t(H25) → 96,300t(H37) ※H25対比117.3%

【肉用牛】

- ・繁殖雌牛 17,100頭(H25) → 18,700頭(H37) ※H25対比109.4%
- ・肥育牛 12,100頭(H25) → 15,600頭(H37) ※H25対比128.9%

【自給飼料】

- ・飼料作物の作付け延べ面積 9,370ha(H25) → 10,862ha(H37) ※H25対比115.9%

4 農林水産省施策の一部紹介

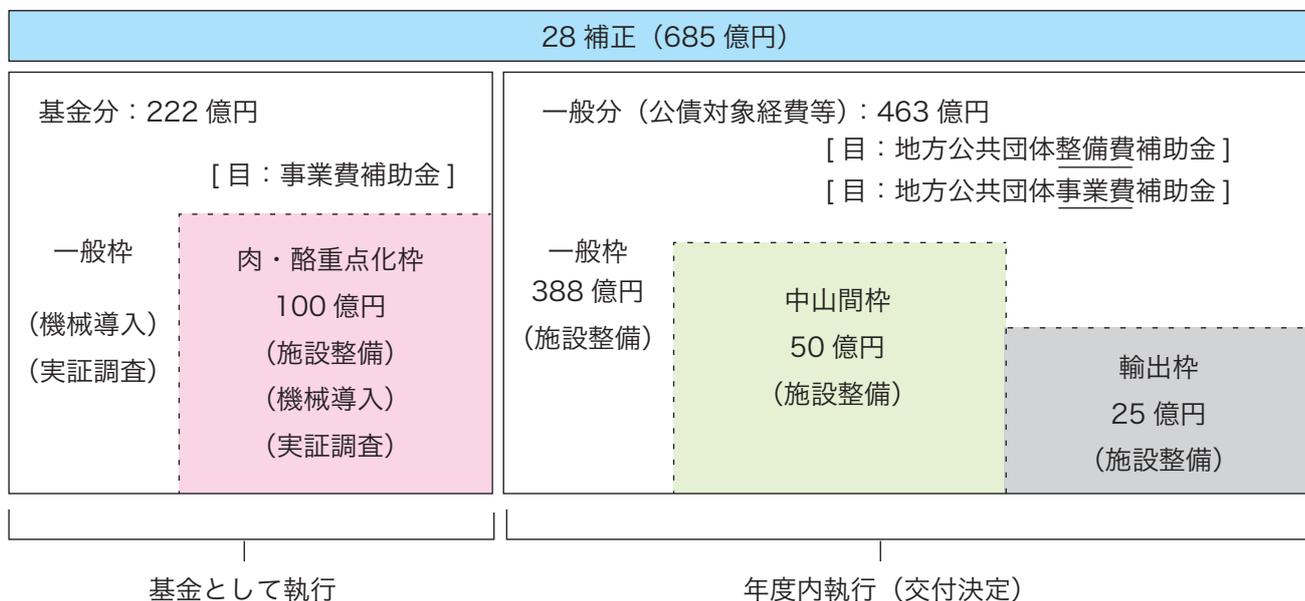
(施策名) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター事業）

(施策概要) 地域の関係者が連携し、一体となって、地域全体で収益性向上を図る畜産クラスターの趣旨を徹底、畜産・酪農の体質強化につなげるもの。

(事業メニュー)

<p>(1) 実証支援事業</p> <p>①概要 収益力向上を目的とした新たな取組の実証等を推進するため、実証に要する資材費や先進地調査等を支援。 ②手続 国直接採択事業。事業主体（畜産クラスター）から農林水産省九州農政局長へ直接、申請。</p>
<p>(2) 施設整備事業</p> <p>①概要 地域の収益性向上を目的とする畜産クラスター計画達成に向け、必要とされる畜舎等の施設整備及び補改修等を支援。 ②手続 間接補助事業。事業主体(畜産クラスター)から市町村、県を通じて農林水産省へ申請。</p>
<p>(3) 機械導入事業</p> <p>①概要 地域の収益性向上を目的とする畜産クラスター計画達成に向け、必要とされる機械等のリースを活用した導入等を支援。 ②手続 (公社)中央畜産会を基金管理団体とし、計画について県のヒアリングを受けた上、畜産協会を通じ申請。</p>
<p>(4) 畜産・酪農生産力強化対策事業</p> <p>①概要 地域の収益性向上を目的とする畜産クラスター計画達成に向けた性判別受精卵活用や発情発見装置導入等を支援。 ②手続 (公社)中央畜産会を基金管理団体とし、県域団体等が申請。</p>
<p>(5) 畜産経営体質強化支援金融通事業</p> <p>①概要 意欲ある畜産農家の経営改善を支援するため、既往負債の償還負担を軽減する長期・低利（当初5年間は無利子）の一括借換資金を融通。 ②貸付対象者 畜産クラスター計画における中心的な経営体又は認定農業者のうち、酪農、肉用牛又は養豚経営を営む者</p>

○平成 28 年度補正予算の畜産クラスター事業の仕組み



- ① 予算合計 685 億円のうち、222 億円を基金、463 億円を一般予算で措置
- ② 施設整備事業に肉用牛・酪農重点化枠、中山間地域優先枠及び輸出優先枠を設定
- ③ 肉・酪重点化枠以外の施設整備事業は一般予算、残りは全て基金により執行される

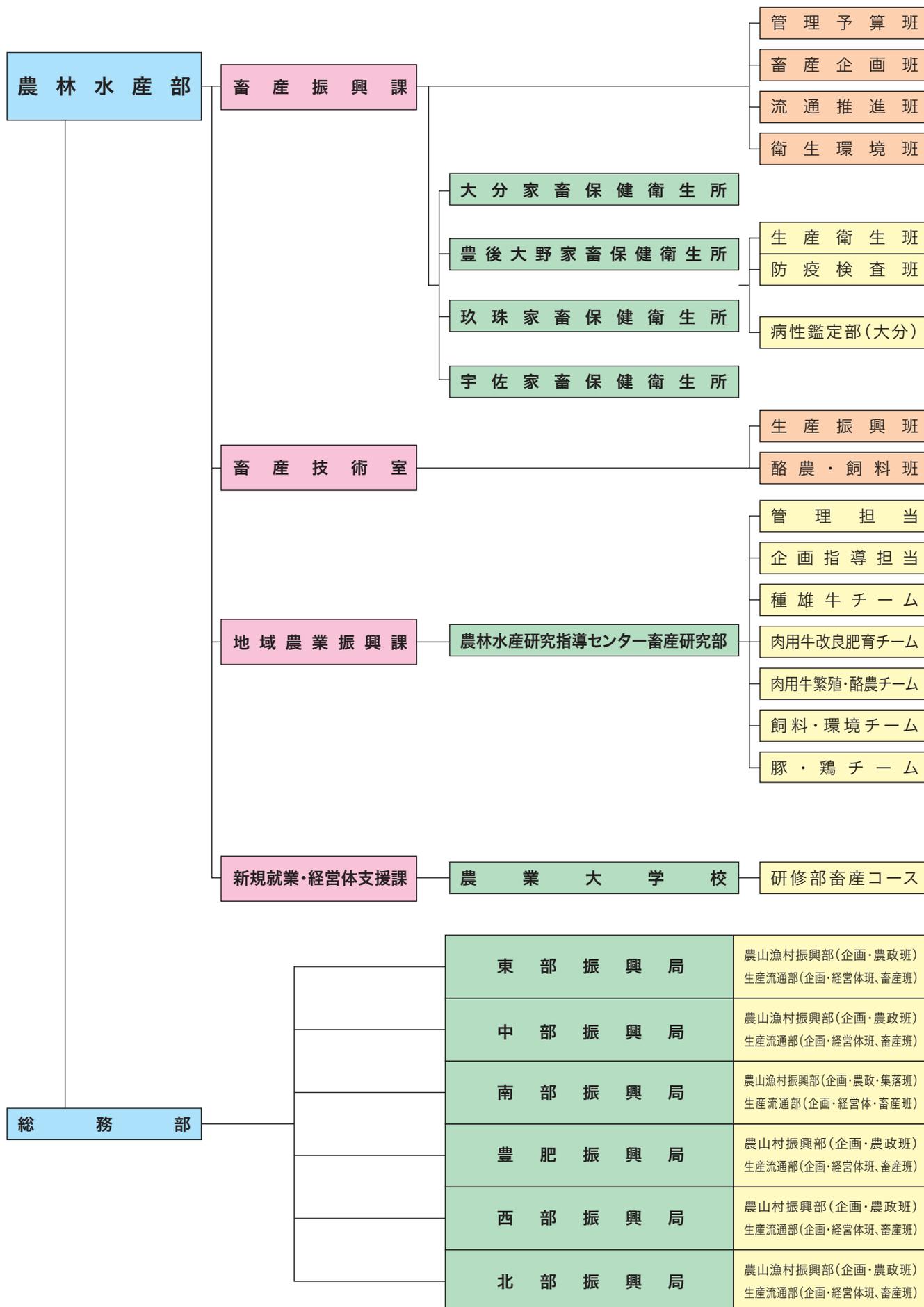
(資料 1)

畜産関係団体等一覧

名称	代表者	郵便番号	住 所	電話番号	FAX 番号
(公社)大分県畜産協会	会 長 近藤 和義	870-0844	大分市古国府 1220 (JA 全農大分県本部内)	097-545-6591	554-4049
大分県家畜人工授精師協会	会 長 植木 三雄	870-8501	大分市大手町 3-1-1 (県庁畜産振興課内)	097-506-3678	506-1762
大分県草地飼料協会	会 長 首藤 勝次	870-8501	大分市大手町 3-1-1 (県庁畜産技術室内)	097-506-3684	506-1762
(一社)大分県配合飼料価格 安定基金協会	理事長 佐藤 祐一郎	870-0025	大分市顕徳町 2-1-3 カ一サ阿部 203	097-534-2727	534-0991
大分県家畜商業協同組合	理事長 石田 和男	870-0044	大分市古国府 1220 (全農大分県本部別館 1 階)	097-532-8577	532-8582
(公社)大分県獣医師会	会 長 麻生 哲	870-0901	大分市西新地 1-2-29	097-555-9527	555-9528
(株)大分県畜産公社	代表取締役社長 佐藤 洋	879-7305	豊後大野市犬飼町田原 1580-29	097-578-0290	578-0308
(有)大分県酪農振興公社	代表取締役社長 本川 一喜	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪内)	097-586-4222	586-4226
(公社)全国和牛登録協会 大分県支部	支部長 近藤 和義	870-0844	大分市古国府 1220 (全農大分県本部別館 1 階)	097-574-8588	574-8258
大分県養豚協会	会 長 工藤 厚憲	870-0844	大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内)	097-545-6593	554-4049
大分県養鶏協会	会 長 荒牧 洋一	870-0844	大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内)	097-545-6593	554-4049
大分県養蜂組合	組合長 枝次 秀樹	879-5506	由布市挾間町挾間 604	097-583-3307	—
大分県食肉事業協同組合 連合会	会 長 清田 浩徳	870-1121	大分市鷲野 929-3	097-529-6544	529-6599
大分県農業協同組合中央会	会 長 佐藤 洋	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 (大分県農業会館内)	097-538-6366	538-7125
大分県信用農業協同組合 連合会	会 長 二宮 伊作	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 (大分県農業会館内)	097-538-6385	535-2746
全国農業協同組合連合会 大分県本部	本部長 長野 博文	870-0844	大分市古国府 1220	097-544-0046	545-9532
大分県農業共済組合	組合長理事 阿部 順治	870-0822	大分市大道町 3-1-1	097-544-8110	544-8242
大分県酪農業協同組合	代表理事組合長 清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231	097-586-4222 (管理部)	586-4226
九州乳業株式会社	代表取締役社長 檜垣 周作	870-1201	大分市廻栖野 3231	097-586-4135	586-4136
(一社)大分県酪農ヘルパー協会	会 長 清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪内)	097-586-4225 (酪農部)	586-4226
大分県牛乳普及協会	会 長 清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪中央支所内)	097-586-4094	586-4095
(株)大分県酪食肉公社	代表取締役社長 安藤 康宣	870-0108	大分市大字三佐字新港 2405-2	097-521-4452	522-2743

(資料 2)

畜産関係機関県組織機構 (平成29年4月1日現在)



未来を拓く
おおいた豊後牛たち

種雄牛

豊後牛 
大分県産の黒毛和牛

期待の星たち

県外への精液譲渡致します
(桜花国、光花国を除く)

安森照

光平照 - 安平 - 隆桜

現場後代検定で調査牛の成績は、BMSが去勢で8.9、全体で8.1と本県歴代1位の成績で、枝肉重量も去勢で497.9kgと、資質系の「光平照」産子ながら肉量も期待できる種雄牛。糸桜系、気高系雌牛との交配を推奨。



IARS 異常症 (-)

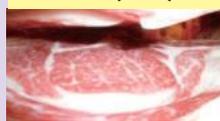
BMS
歴代 1位

平福安

寿恵福 - 安平 - 糸晴 (佐賀)

現場後代検定成績
BMSNo. 7.3
ロース芯面積 61.2 cm²
枝肉重量 479.9 kg

検定牛 (去勢)



BMSNo. 12
枝肉重量 593.2 kg
ロース芯面積 84 cm²

BMS
歴代 2位

気高系雌牛との相性抜群

寿恵高福

寿恵福 - 平茂勝 - 神高福

現場後代検定では BMS で大分県歴代 3 位。育種価評価では脂肪交雑とロース芯面積で高い評価を得ている。平成 26 年広域後代検定では BMS でトップの成績。気高系、但馬系雌牛との交配を推奨。



H26
広域後代検定
BMS 1位

光星

光照福 - 平茂勝 - 福桜 (宮崎)

第 10 回全国和牛能力共進会 第 1 区首席の名のとおり、産子は発育良好で表現型に優れ、性格も温順である。現場後代検定では、特に歩留基準値に優れ、また、オレイン酸値も平均 58.1% と現在のニーズである肉量と食味に優れた成績であった。交配は糸桜系、但馬系雌牛を推奨。



第 10 回全国和牛能力共進会
第 1 区 (若雄の区) 首席
農林水産大臣賞

豊之維新

安福勝 - 金幸 - 神高福

「安福 165 の 9」を父とする「安福勝」と「金幸」を父とする母「さとみ」の受精卵により造成された種雄牛。現場後代検定では特に BMS に優れ、モモ抜けも良好。気高系、糸桜系雌牛との交配を推奨。



BMSNo. 12
ロース芯面積 77 cm²
枝肉重量 429.6 kg

桜花国

第 1 花国 - 紋次郎 - 糸福

「第 1 花国」と、「紋次郎」を父にもつ「うえ 299」により造成された種雄牛。現場後代検定では去勢で枝肉重量・ロース芯面積・脂肪交雑に特に優れていた。気高系、但馬系雌牛との交配を推奨。



BMSNo. 12
ロース芯面積 70 cm²
枝肉重量 613.0 kg

光花国

第 1 花国 - 大船 7 - 糸福

本県を代表する藤良系種雄牛「大船 7」を父に持つ「たいせん 23」に「第 1 花国」を交配して造成した種雄牛。現場後代検定調査牛 (去勢) の速報値では枝肉重量 554.9 kg、BMS 8.3 と質量兼備の良好な成績である。県下で多く飼養される気高系雌牛との交配を推奨。



BMSNo. 11
ロース芯面積 62 cm²
枝肉重量 571.8 kg

睦美幸

茂洋 - 寿恵福 - 神茂福

BMS に優れる「寿恵福」を父に持つ「ゆたか 2」に「茂洋」を交配して造成した種雄牛で、現場後代検定調査牛 (去勢) の速報値では枝肉重量 499.1 kg、ロース芯面積 69.2 m²、BMS 8.3 と良好な成績である。気高系、糸桜系雌牛との交配を推奨。



BMSNo. 11
ロース芯面積 88 cm²
枝肉重量 561.5 kg

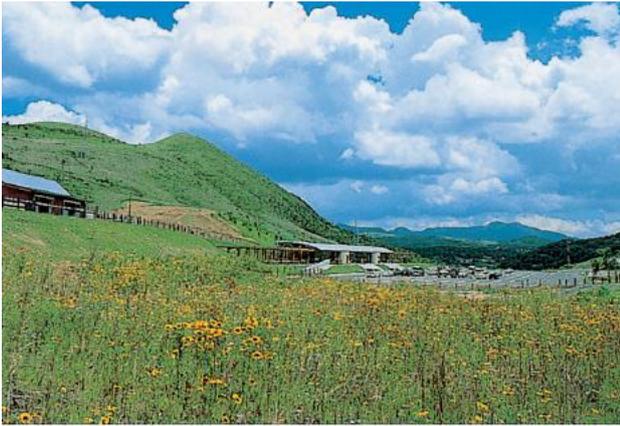
(資料 4)

県内の主要なふれあい牧場

町田バーネット牧場

大分県玖珠郡九重町町田
TEL 0973-78-9446 FAX 0973-78-9449

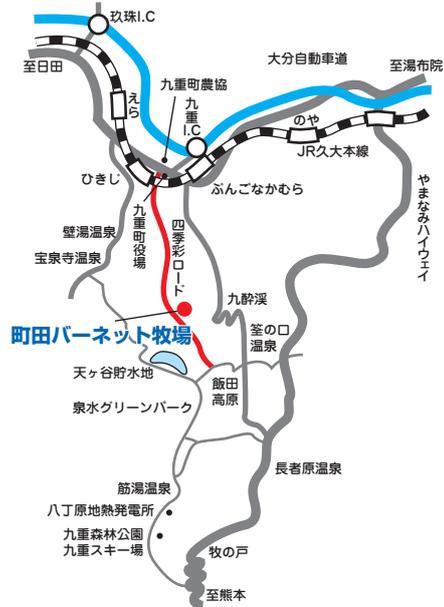
自然の景観が素晴らしい町田バーネット牧場は豊後牛をはじめいろいろな動物を飼育している。ポニー、ヤギ、ウサギ、地鶏に直接エサを与えたり、触ったり、動物とのふれあいを通して忘れかけた自然のすばらしさを満喫することができる。



○駐車場/300台 ○売店/有 ○営業時間/夏10:00~18:00 冬10:30~17:30 ○バーベキューハウス/有 ○休日・休館日(冬期) /第2・4火曜日 ○乗馬体験(有料) /5月連休・夏休みのイベント時

【アクセス】

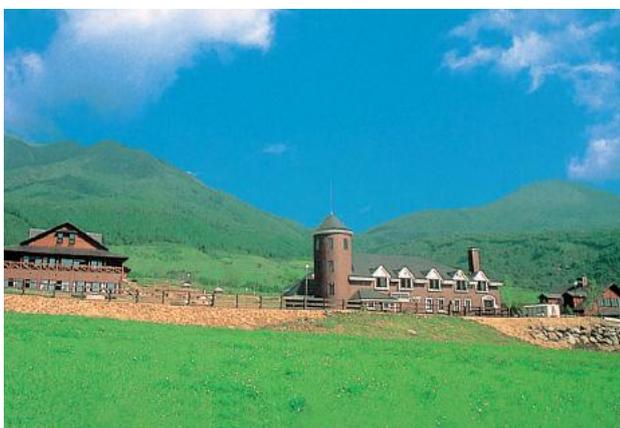
- ◎電車 / JR久大本線豊後中村駅下車、車で15分
- ◎車 / 大分自動車道九重ICから15分



ガンジーファーム

大分県竹田市久住町大字久住4004-56
TEL0974-76-0760

久住山の山麓の高原には名前の由来にもなったガンジー乳牛が飼育されている。乳製品工場、レストランや資料館が点在し、自家製乳製品はおみやげにも最適。ふれあい牧場(羊、ヤギ等)、ポニーハウスも有る。



○駐車場/250台 ○売店/有 ○営業時間/9:00~17:00 ○レストラン/有 ○休日・休館日/無 ○ポニー乗馬体験/土・日・夏休み ○オリジナル牛乳・乳製品/牛乳、アイスクリーム、チーズ、ヨーグルト他

【アクセス】

- ◎電車 / JR豊肥本線豊後竹田駅下車、車で30分
- ◎車 / やまなみハイウェイ(九州横断道路) 瀬の本交差点から15分



みどりマザーランド

〒870-1203 大分県大分市大字廻栖野3231
TEL 097-586-4183 (九州乳業株) 平成12年4月開園

都市（大分市）に隣接した地域にあって、豊かな自然に恵まれた山と緑が織り成す雄大な景観に浸りながら、広大な芝地の中での遊観。複合的遊具等、変化に富んだ施設が整備され、四季を通じて広く住民の「交流の場」として利用されています。



○駐車場／300台(イベント開催時1,000台)大型バス10台(イベント開催時20台) ○ふれあい・研修施設／ふれあい牧場、ふれあい公園施設、研修施設ふれあい棟・見学コース(製造行程) ○入園時間／9:00～17:00

【アクセス】

◎車／大分市中心街より20分



(資料5)

平成28年農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事（1～12月）

月 日	内 容
1月14日～16日	肉用牛ゼミナール県外先進地視察研修（岐阜県、三重県）
1月14日～15日	肉用牛ゼミナール県外先進地視察研修（熊本県、長崎県）
1月21日	放牧研修会「水田跡・耕作放棄地に肉用牛放牧を進めるために」 講師：（一社）日本草地畜産種子協会梨木アドバイザー（ホルトホール大分）
2月9日	農林水産省と連携した口蹄疫防疫演習を実施
2月16日	九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会（宮崎県）
2月19日	肉用牛ゼミナールが2年間の研修を修了し、閉講式をアリストンホテル大分にて開催
2月19日	岡嶋建一郎氏（九重町）が全国ホルスタイン改良協議会会長に就任
2月25日	（有）富貴茶園（豊後高田市）が第47回農業賞（法人経営の部）で最優秀賞を受賞
2月26日	自給飼料増産セミナー「SGSの推進について」 講師：山形県庄内普及センター小野貴弘氏（日出総合庁舎）
3月18日	第11回全国和牛能力共進会 肉牛区候補牛臨時市場を開催。上場88頭（成立76頭、本人下げ12頭）肉牛区候補牛頭数81頭（平福安36頭、光星45頭）
4月12日	県酪TMRセンター新機械竣工式（日田市）
5月17日	平成28年春の褒賞で玖珠町の衛藤昇氏（肉用牛繁殖農家）が黄綬褒章を受章
5月24日	黄綬褒章を受章した衛藤昇氏（玖珠町）が農林水産部長に受章報告
6月4日	リオ五輪・女子柔道日本代表梅木真美選手激励壮行会にて豊後牛を贈呈（九重文化センター）
7月11日	強い農業づくり交付金で整備を進めてきた（株）大分県畜産公社の新食肉処理施設整備工事が完了
7月13日	（株）大分県畜産公社新施設の完成に伴い竣工式及び落成祝賀会を開催
7月13日	新食肉処理施設の落成を記念して日本畜産物輸出促進協議会理事長の菱沼毅氏を講師に招き「牛肉輸出に関する講演会」を開催
7月25日	九州・沖縄・山口ブロック家畜衛生主任者会議（長崎県）
8月3日	第68回大分県肉牛枝肉共励会（大阪南港市場）
8月22日	（株）大分県畜産公社新工場が本稼働を開始
9月9日	農林水産省と連携した高病原性鳥インフルエンザ防疫演習を実施
9月21日～25日	阪急百貨店大分フェアで「おおいた豊後牛」をPR

平成28年農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事（1～12月）

月 日	内 容
10月1日	大分県畜産共進会（肉牛の部）が開催される（大分県畜産公社） （有）ファゼンダ・グランデ（玖珠町）が農林水産省生産局長賞を、後藤忠氏（豊後高田市）が九州農政局長賞を受賞
10月8日～9日	「ちくさんフードフェア2016」（神奈川県）において鳥取県、長野県とともにオレイン酸牛肉の講演会に参加。「おおいた豊後牛」をPR
10月15日	大分県畜産共進会（肉用牛の部）が開催される（別府公園文化ゾーン） 小野美代子氏（由布市）が農林水産大臣賞を、吉野純子氏（竹田市）が九州農政局長賞を受賞
10月15日～16日	大分県農林水産祭（農林業の部）において、畜産フェスタやスタンプラリー等のイベントを開催
10月17日	（株）大分県畜産公社で47頭が上場され、初の牛枝肉のセリ取引を開始（以後セリ取引は毎月開催）
10月26日	大分県畜産共進会（乳用牛の部）が開催される（みどりの王国） 岡嶋建一郎氏（九重町）が農林水産大臣賞を、（農）ほきの台牧場（玖珠町）が九州農政局長賞を受賞
11月1日～31日	「おおいた豊後牛」取扱認定店において消費拡大キャンペーンを実施
11月2日	大分県特定家畜伝染病（HPAI）防疫演習を実施（看護科学大学） 改正された防疫ガイドラインの手順等に従い、発生時の初動防疫対応を確認
12月2日	大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会を開催
12月7日	第69回大分県肉牛枝肉共励会（大阪南港市場）鷲頭栄治夫妻が大日本農会農事功績表彰受賞を知事に報告
12月16日	鷲頭栄治夫妻（九重町）が大日本農会農事功績表彰受賞を知事に報告
12月19日	県産統一ブランド豚「米の恵み」の銘柄発表、販売開始



衛藤昇氏（玖珠町）の黄綬褒章受章報告



大分県畜産共進会（肉用牛の部）
小野美代子氏（由布市）
が農林水産大臣賞を受賞



大分県畜産共進会（肉牛の部）
（有）ファゼンダ・グランデ（玖珠町）が農林水
産省生産局長賞を受賞



大分県の新たな県産豚肉ブランド「米の恵み」

①県内で生産され、②餌に10%以上の米を配合して給与し、③(株)大分県畜産公社が行うオレイン酸簡易測定を実施した豚枝肉を「米の恵み」として認定。さらに、オレイン酸含有率45%以上のものを上位ブランド「米の恵みプレミアム」として認定します。



「米の恵み」知事報告会

平成28年12月19日、県、農業団体並びに養豚生産者(大分県養豚協会)・流通団体で構成する大分米ポークブランド普及促進協議会は、大分県産豚の新たな統一銘柄の名称を決定し、今後、統一ブランドの確立に向けて、関係者が一体となり取り組むこととし、知事に報告をしました。

- ・ 大分の畜産2016
- ・ 平成29年3月発行